

聖徒の道

7

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第7号 1964年7月1日発行 SEITO-NO-MICHI



「ホーム・ティーチング」の重要性

予言者のことば

……大管長 デビッド・O・マッケイ…374

末日聖徒の責任

伝道部長メッセージ

……ダウエン・N・アンダーセン…379

メルケゼデク神権はなぜイスラエル

から取り去られたか

質疑応答

ジョセフ・フィールディング・スミス長老…382

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粹

ジョセフ・フィールディング・スミス長老…386

主の慈悲により十一基の石燈籠

無事寛永寺に還える ……………398

建築活動と証詞会 ……………402

投稿 ……………405

特にハワイ神殿訪問予定者に告ぐ ……………408

系図の道じるべ ……………410

伝道部扶助協会長メッセージ

……ペギー・ヒュイシ・アンダーセン…412

ジョセフ・スミスの生涯(20) ……………415

支部だより…391 伝道本部だより…396

聖徒の道 第八卷 第七号

1964年 7月号



表紙

北海道地方部、地方部長
柳沢俊男兄弟の家族





予言者のことば

「ホーム・ティーチング」の

重要な基礎

大管長 デビド・O・マッケイ

これは千九百六十三年五月十五日、水曜日、教会総本部の庁舎で行なわれた「ホーム・ティーチング」の代表者たちの会合でデビド・O・マッケイ大管長の述べられた話の摘要である。

兄弟姉妹たちよ、私はこの歴史的な出来事すなわち教会で始めて催おされたこのような集りでああなたがたに会うことをひじょうに喜んで居ります。

今朝私は神権の権能について一言お話ししたいという強い感じ

を受けたと思っています。千九百二十一年に、私がリバティ・ステーク部長のヒュー・J・カノン長老と一しょに、各地にあるわが教会をまわっていたとき、私たちが港を出るとまもなく、同じ船に乗っていたある男とその細君とが自己紹介をして話しかけてきました。私たちが話をまじえているとき、その細君がやや弁解的に「一つおききしてもよろしいでしょうか」とたずねました。そこで私が「結構ですとも、しかし私はあなたがおききになる前にお答えしましょう。私は一人しか妻を持って居ません」と答えますと、その細君は不思議そうに「多妻

結婚があなたの宗教の目的ではなかつたならば、目的というのは何でございませうか」ときいてきました。私が「私たちはクリスチャンです」と言いますと「私たちもクリスチャンでございませう」と答えたその細君はそれから「あなたの教会にある目だつた特色というのは、それでは何でしようか。あなたの教会と私の教会のちがひというのは何でしようか」という重要な質問をしました。そこでこれに答えて私は「ちがひというのはいくつもありますが、おもなちがひは私たちの教会には神の直接の啓示による神聖な権能があることです」と言いました。

私は、ほかの教会と区別をする主要点とはならない、あの「神聖でない権能」についてすこしお話をしたいと思ひます。ローマ・カトリック教会は、彼らが浅はかにもローマの監督であつたと断言している聖ペテロから直接伝わつた「神聖な権能」があると主張しています。ギリシヤ教会はペテロのあとまで生きていた五人の使徒から「神聖な権能」を伝えられたと主張しています。この二つの教会は自分のところに「神聖な権能」があると主張していますが、北アフリカにあるエジプト・キリスト教会もまた自分のところに「神聖な権能」があると主張しています。このように、ローマ教会もギリシヤ教会もエジプト教会もそのほかの教会もみな「神聖な権能」が自分のところにあると主張していますが、「直接の啓示による神聖な権能」をもっている教会は世の中に一つしかありません。

今から数百年前、アメリカの最初のバプテスト教会の頭首の地位を退いたときに次のように言つた人は正しかった。「あらゆる教会の偉大な頭首（すなわちイエス・キリスト）が新しい

使徒たちをつかわしたもうまで、この地上に一つの正しい組織をもつた教会も、教会の儀式を行なうための権能を認められた人もないし、またそれがあるはずもない。その使徒たちのくるのを私は今待っているのだ」ロジャー・ウィリヤムス。

千八百二十年、神の使者が本当に來ました。神御自身とその愛子とが予言者ジョセフ・スミスにあらわれたまい、少年予言者は「こはわが愛子なり、彼に聞け」という神の御声を聞きました。これにつづいて神の使者たちが神権を回復しました。この世に生まれて以來教えを受け、また「救い主」から直接承認を受けたバプテストマのヨハネがアロン神権を回復し、クリスチャンであつたらその権能を疑う者もないペテロ、ヤコブ、ヨハネの三人が來て予言者ジョセフ・スミスにメルケゼデク神権を回復しました。

アロン神権の中には祭司と教師と執事の職があり、管理監督がアロン神権の会長会の長の権能をもつてこれらを管理します。またメルケゼデク神権の神権者を管理する者は三人の大祭司すなわち一人の大管長と二人の副管長であります。また「そして彼はある人を使徒とし、ある人を予言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師としてお立てになつた。それは聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついにキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」（エペソ人への手紙四〇十一―十三）と昔のパウロが言つたことばに従つて大祭司、七十人、長老等があります。

私たちは今日、聖徒たちをととのえるために訪問し、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせるために」教える力を尽している人々に助けを与える義務のある方々に話をして居ります。

メルケゼデク神権の定員会には、前に私が言いましたように大祭司の定員会と「七十人」と特に呼ばれる人々の定員会と、長老の定員会とがあります。また教会の「指導者の組織」とは別に、前に私が言いましたように、わが教会独特の組織である「定員会の組織」がありまして、「指導者の組織」の中にはステーキ部と伝道部とがあります。この「定員会の組織」と「指導者の組織」とはわが教会における二つの大きな区分であります。そしてステーキ部の中にはステーキ部長一人、副ステーキ部長二人と数人のワード部長とがあります。

メルケゼデク神権の中には使徒、大祭司、七十人、長老等の職があり、これらは教会の大管長会が直接管理をいたします。また「七十人」には啓示によって任命された特別の会長会があります。そして、長老たちはステーキ部の会長会とされている「指導者の組織」の長から直接指揮を受けています。またアロン神権者はアロン神権の会長会の権能をもっている監督会の指揮を受けて居て、監督は按手聖任によって祭司定員会の会長である職をもって居り、祭司定員会の会長は監督の按手聖任に伴なって組織されます。教師も執事もこれと同様ワード部の監督会の指揮を受けています。

以上のように、教会の中には「定員会の組織」による権能の源と「指導者の組織」の中にある二つの区分（ステーキ部と伝

道部）による権能の源とがあつて、各定員会は公けに任命され按手聖任された三人の人々によって管理されています。今から後、大祭司の会長会の長はステーキ部の部長になります。この定員会の会長がステーキ部と言われている「指導者組織の団体」の長であるのもふさわしいことであります。「七十人」たちはまたそれぞれ自身の組織をもって居り、長老定員会の会長はステーキ部長会の指揮を受けるであります。

定員会の各会長が会員と共に集まり、会議に出席し、会員にその義務を教えることは為さねばならぬことであります。（これは大切でありますから）私は「会員と共に会議に出席し会員にその義務を教えること」は為さねばならぬことであります、ともう一度くり返して申します。

さて、会員が定員会で一団となつて出席するとき、彼らに係のある「指導者組織の権能」はステーキ部長としての権能だけであります。

大祭司の定員会でも、「七十人」の定員会でも、長老の定員会でも、定員会の会長会の義務は定員会の会員と共に会議に出席し、会員にその義務を教えて、会員がすべて正規の義務を忠実に守っているかどうかに気をつけることであります。これは全教会を通してあまねく見られる独特の組織であります、その意味またはその充分な意義を今日全部の教会員は理解して居りません。

秘密結社対社会の關係と、定員会对末日聖徒イエス・キリスト教会との關係は同じものがあります。すなわち各定員会は会員同志の協力、兄弟愛、および団体としての愛を育成する義務

があり、会員の一人一人は教会の各組織に奉仕をする義務を負っています。会員たちは教会の会員として「指導者組織の権能」に服従するものでありますが、定員会の会員としては「指導者組織の権能」の下に在るものではありません。各定員会の会員はその定員会の会長会の権能に従うものでありますから、定員会の会員に一致協力をさせるのが定員会の会長会の義務であります。

このところをもっと説明させていただきましょう。あの船に乗っていたときに起ったことについて再び言うと、私があの男に会ったのはそれが始めてでありました。その男が私の方へやってきたとき、私は、彼が私を何者であるかを認めたということを知りましたが、私は彼が何者であるかわかりませんでした。彼は私の手のある種のにぎり方（秘密結社同志の特殊な握手法）でしっかりとにぎりましたが、急にその手を放して「どうも失礼しました」と言いました。彼は私のつけているネクタイピンに目をつけていました。それは私の妻が前に私に贈ったもので星と新月とを組み合わせたものでした。彼はこのピンが彼の属している結社のしるしであると認めたのであります。彼は私の手をしっかりとにぎりましたが、私は彼を知らないもので彼はその手を急に放しました。私は彼にとって全く知らない人でしたが、彼はその結社のしるしを認めて会員同志の協力を育てたいと思ったのでした。私たちも何とかくして教会の定員会の中でこれと同じ精神をもつべきであります。定員会の会員はすべて霊に関することばかりでなく、財政の面でもそのほかあらゆる面でも互いに助けることのできるように結び合っていない

ればなりません。もしも私たちが、教会の定員会の中でその一致協力の精神を得たとしたなら、私たちは教会の神権者組織の完全な意味がわかり始めたというものです。

私はくり返して申します。監督は長老「七十人」もしくは大祭司のところへ行つて指図をする権能をもっていないけれども定員会の会員はやはり監督のもっている「指導者組織の権能」の下に監督の支配と導きとを受けています。長老も「七十人」も大祭司もワード部の会員として「仕分の一」を納めることに關して監督の支配に服し、また日曜学校、M I A等の管理者のような「指導者組織」の中の地位に召されることもあるでしょう。しかし、定員会の会員として働らくときには定員会の会長会の指令に服しています。従つて、定員会の会員がその定員会の規格に反した行為をするときに、その会員の会員としての資格を停止することはその定員会の権利であります。私は、ある人にふさわしくない行為があつたために、その人の属する「七十人」の定員会の会員が「兄弟同志」としての協力の手を伸ばすことをやめたという例を知っています。この「七十人」定員会は、その人を破門する権限はもっていないが、その人がふさわしくなるまで「兄弟同志」としての協力の手を伸ばすことをやめる権限は実際にもつていたのであります。

ここで私は市民組織に関する権威であるチャールス・ズーリン氏とかわした会話のことを思い出します。私はそのとき、氏にデーヴィス・エンド・ウェバー・カウンティの水路系統を見せるために同行していたのでした。私たちは遠くも行かないうちに、水路について話をしないで教会の組織について話し

合っていました。私は氏に指し示して「右の方にいるのが第一ワード部、左の方にいるのが第九ワード部です。これらのワード部には祭司、教師、執事等があって、それぞれ会長会によって管理をされているのです」と言いました。そして私は、教会の組織を「指導者の組織」によりまた定員会によって説明をしました。

すると氏は「あなたは、教会の会員をどのようにしてそれらのワード部の中に保っていますか」とたずねました。氏はこのとき「ワード部」ということばはある種の公共組織（社）と結びつけていました。私が各ワード部はそれぞれ責任をもっていますと答えますと氏は、

「市の中にある各集団にそれぞれ責任が伴っているというこの考えを、どのようにしたらアメリカ合衆国にあるすべての市に導入することができますか」と大きな声で言いました。それで、

「わかりません。しかし、何か共通の利益がなくてはならないでしょう」と私が答えますと、

「その通り、しかしその共通の利益は宗教上の利益でなくてはならないですか」と氏が言いました。そこで私は、

「わかりません。しかしそれは私どもにとっては宗教上の利益です。しかもそれで大へん旨く行っています」と答えました。

私たちの教会の組織は神の命によって組織されました。それでもしもこの組織を旨く運営さえすれば、全世界どの国にある三百人から成るワード部でも五千人から成るステーキ部でも効果があるにちがありません。

あなたがたはこれをどのように「ホーム・ティーチング」にあてはめて実行しようとしていますか。「指導者組織の幹部の指導者」ワード部の監督、大祭司「七十人」長老たちは「ホーム・ティーチング」に参加していますか。定員会の会員がその会員を教えることの重要性はさきに強調しておいた通りであります。小神権者とすべての会員たちの助けを得て「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせる」ために働いている兄弟たち（大神権者たち）と共に「ついに私たちすべての者が神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」のであります（エペソ人への手紙四〇—二—十三参照）。

「ホーム・ティーチャー」に、各個人の福祉に気をつける責任をもたせるのは正しいことであります。直接の啓示によって来る権能を帯びているすべての者が、自分の持つ権能を行使することによってその「指導者組織」の義務を認めるよう、適切に任務をわりあてることができます。

私はあなたがたに祝福を与えます。神があなたがたにめぐみを与え、靈感を与えて、あなたがたがこの新しい計画と新しい任務の精神を全教会員にもたらし、私たちの「ワードティーチング」をこの「ホーム・ティーチング」の計画によって活気づけかくしてすべての人に「神の御子」から直接に来る神権を自覚させるようになしたまわんことを。

神のめぐみがあなたがたにあるように、イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。

末日聖徒の責任

あかつきの静けさはおそろしい神風飛行士の（操縦する機）のす
るといふなり声でやぶれました。神風飛行士たちは、まわりにさく
れつする対空砲火をもものともせずまっすぐに飛んできました。そし
て、その針路をすこしもかえらずに敵艦の横はらめがけて人間魚雷の
ようにつっこんで行きました。数人ではなく何万という若人たち
が、このようにしてその若い命を祖国のためにささげたのでありま
す。日本人々は、自分が日本人であることに大きな誇りをもつて
います。日本人は、もしも必要ならその生命をすてても祖国を守る
のであります。そして、国法に従い国の指導者たちを支持し、政府
が正しく運営を行なう基金をもつことができるように税金をおさめ



伝道部長

ダワエン・N・アンダーセン

ています。まことに日本国または沖繩の人々は、日本人であるため
にまたは沖繩人であるために、或る義務と責任とがあることをよく
知っています。日本と沖繩がすばらしい発展をしていることがその
何よりの証拠であります。

さて、愛する兄弟姉妹たちよ。あなたがたは信仰と悔改めとバプ
テスマとによって地上にある神の王国の一員になっています。使徒
パウロは「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもな
く、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである」と申し
ました（エペソ人への手紙二章十九参照）。私はあなたがたがこの
永遠の王国の一員におなりになったことに対してお祝いのことばを
申します。そして、あなたがたがここにそなえてある完全な祝福を
その身に受けるために、神の王国の民として守るべき義務と責任と

を理解するようにお助けするのが私の最も大きなねがいであります。モルモン経にのっている予言者ニーファイは、バプテスマを受けてから私たちの為すべきことについてはっきりと説明をしております。

「そうすれば、あなたたちはすでに永遠の生命へ行くまっすぐでせまい道に入ったのである。すでにその門から入って天の御父とその御子との命令に従う行いをし、天の御父とその御子のことをあかします聖霊を受けたのである。そして聖霊が降るのは、汝らがいよいよ道によって入るならば聖霊を受けるといふ神の約束が履行されることである。さて私の愛する兄弟たちよ。わたくしはたずねたい。あなたたちはこのまっすぐでせまい道へ入ったら、それで万事終りであるか、ごらんそうではない。あなたたちがもしもキリストのことばによってキリストを清く信仰し、人を救う大きな能力のあるキリストの功德に全くたよらなかつたなら、あなたたちはここまで進んでくることさえできなかったのである。それであるからあなたたちは、これからもキリストを確く信じてうたがわず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進まなければならぬ。それであるから、この後もたえずキリストのことばをよく味わいながら強く進み、終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』かの如く天の御父が言いたもうた。(ニーファイ第二書三十一章十八—二十参照)。

私たちが神の王国の一員として為さねばならぬ責任に三つの面があります。すなわち(一)自分自身に対する責任(二)自分の家族に対する責任(三)他人に対する責任、がそれでありま。

あなたがたは「私の個人的責任とは何ですか」とおききになるか

も知れません。いまその二、三を考えてみましょう。主は「わたしを愛するなら、わたしの誠命を守りなさい」とお言いになりました。それで私たちは、主の下したもうた誠命をすべて守らなくてはならない責任があります。そしてこの中には、私たちが神の誠命を知るためには学び、祈り、かつ集会に出席しなければならぬという意味が含まれています。モルモン教会には「神の栄光は英知なり」、「あなた方は知識を得るに従って救われることができる」という昔から有名なことばがあります。また、男子の改宗者も、神の神権を受けてこれを高めることができるように生活をする義務があります。私たちがこの神の王国から最も多くのめぐみを受けるはずであるならば、私たちは教会の手つづき、教会の教義および教会の組織を知らなくてはなりません。それを知るための鍵となることばは「勉強せよ」、「祈れ」、「命令に従え」の三つであると言えるでしょう。

すべて健康な男女は一人のこらず結婚をして子供を産みこれを育てるのが当然であります。これらの人々は清い身心を以て結婚の祭壇にぬかずき、神聖な誓いを立てる準備ができていなければなりません。夫たる者は自分の家庭のかしらとして家庭を管理するにふさわしい生活をし、家族の必要とするものを与えなくてはなりません(「教義と聖約」七十五章二十八参照)。そして、忍耐強く親切であり愛情に富んだ夫であり父でなくてはなりません。また妻たる者は子供たちの必要とすることの世話をするのももちろん、夫が神権と教会の召しとを遂行するに当って夫を支持しはげましを与えなくてはなりません。そして夫婦の間、両親と子供たちの間には愛がなくてはなりません(モーサヤ書四章十四—十五参照)。そして両親は

その子供たちに神の道を教える責任をもち、「教義と聖約」六十八章二十五参照）、子供たちはみなごく幼ないときから教会堂や神聖な事物に対する敬けんの念を教わらなくてはなりません。また家族の者は「什分の一」そのほか主に対する財政上の義務を果すことができよう、収入以内で生活をしながらはいけません。最後にもう一つ家族の責任を挙げると、それは機会が来たときに神殿へ行けるように準備をすること、先祖のためにできるだけ系図の探求を行なうことであります。

私たちは神の王国の一員として他人に対する大きな責任を帯びています。第一に、私たちは主イエス・キリストの弟子として他人の良い模範にならなくてはなりません。そして、他人にも奉仕をするために、自分が指導者であるための性質を発展させるのはもちろん、教会の指導者たちを支持しなくてはなりません。また、私たちは全き人となるために（エペソ人への手紙四章十一—十六参照）、お互いを強め神の王国で働らかななくてはなりません。第二に、私たちは一旦福音がまことであるというあかしを得たなら、そのあかしを隣人に語る責任があります。「されば……すべての人はその隣人をいましむる責任あり」（「教義と聖約」八十八專八十一—八十五参照）。

神の王国の一員として私たちの負わなくてはならない責任は大きいと思われませんが、事実その責任は大きいのであります。しかし、私たちが回復された福音の光に照らしてながめるとき、それらの責任は責任でなくて大きな好機会であります。もしも私たちがしっかりと終りまで耐え忍ぶなら、私たちは此世で成功と幸福とを与えられ、次の世では「昇栄」と「永遠の生命」とを与えられるにち

がいありません（ニーフアイ第二書三十一章二十参照）。私たちがみなこれらのすばらしい好機会をのがすことなく利用するように祈る次第であります。





メルケゼデク神権はなぜイスラエルから取り去られたか

質問

私たちのクラスに出ている人たちの間に、「教義と聖約」に述べてあることについていくらか誤解があります。「教義と聖約」の中には、モーセの死後イスラエルからメルケゼデク神権が取りあげられて、イスラエルは「天使の人を助ける鍵と備えの福音の鍵をもつ」アロン神権と肉体にかかわる誠命とだけもつようになりました（「教義と聖約」八十四〇二十五―二十六参照）私たちがこまっ

るのは、イスラエルはどうしてアロン神権とモーセの律法だけで存在することができたかということであります。もし私たちの考えが正しいなら、教会の会員を確認するにはメルケゼデクの神権が必要であります。もしも「教義の聖約」のことは正しいなら、そのとき聖霊を授ける職を行なう人は一人もありませんでした。それにもかかわらずペテロは「なぜなら予言は昔、けって人間の意志から出たものでなく、神の聖者が聖霊に感じて

語ったものだからである」（欽定訳聖書、ペテロの第二の手紙一〇二十一参照）と言って居ります。私たちは、メルケゼデク神権の職に在って福音の儀式を行なう権能をもっている人なしに、どうしてイスラエルが存続したか理解に苦しむのであります。この問題についてはっきりしたことばが言っておりますかお教えをねがいます。

質疑応答

解答者

ジョセフ・フィールディング・スミス長老

十二使徒会会長

解答

イスラエル人がエジプトの地を出たとき、主なる神はもしもイスラエル人が神の誠命を守り彼らが神と結んだ契約に忠実であるなら、神権のもつ完全な権能を彼らに与えようと申し出された。ところがイスラエル人にはこのような祝福を受ける値のないことと、まだ準備ができていないことがわかったので、主なる神はイスラエルの族の男子にメルケゼデク神権の祝福を授けることをひかえたまま、ただアロン神権だけをのこしてお置きのままに置いたが、これもまたレビの族にだけ与えられ、レビの族はイスラエルのためにぎせいを捧げる儀式を執り行なった。これはひじょうに興味のある話であって、近代のイスラエル人にとって一つの教訓になるはずである。

主なる神はイスラエル人が荒野を旅しているとき、始めから終りまでいつも豊かなめぐみを与えたまい、多くの奇蹟をあらわして親切と思ひやりとをお示しになつたが、イスラエル人はそれに対して恩知らずの態度をあらわした。イスラエル人が荒野の中をさまよつてあることは、われわれが主なる神の不興を招かないために、この「最後の神権時代」におけるわれわれの旅路と責任にとつて為になる教訓にすべきである。

またイスラエル人は荒野の中にとどまっていた間、始めから終りまで、甘やかされた子供のもっている性質を示した。彼らは明らかに、主なる神がモーセに与えたもうた教えを理解していなかった。従つて、彼らがヨルダン川をこえて受け嗣ぎの地へ入つて行く時が来たとき、かつて主なる神が予言を以て彼らに警告してお置きの事となつて現われた。それは次の通り「民数記」にしてある。

「主はモーセとアロンに言われた。わたしにむかつてつぶやくこの悪い会衆をいつまで忍ぶことができようか。わたしはイスラエルの人々がわたしにむかつてつぶやくのを聞いた。あなたは彼らに言いなさい。「主は言われる『わたしは生きてゐる。あなたがたが、わたしの耳に語つたようにわたしはあなたがたにするであろう。あなたがたは死体となつて、この荒野に倒れるであろう。あなたがたのうち、わたしにむかつてつぶやいた者、すなわち、すべて数えられた二十才以上の者はみな倒れるであろう。エフソネの子カレブとヌンの子ヨシヤのほかは、わたしがかつてあなたがたを住まわせようと手をあげて誓つた地にはいることができないうであろう。しかし、あなたがたが、えじきになるであろうと言つたあなたがたの子供は、わたしが導いてはいるであろう。彼らはあなたがたがいやしめた地を知るようになるであろう。しかしあなたがたは死体となつてこの荒野に倒れるであろう。あなたがたの子たちは、あなたがたの死体が荒野に朽ちはてるまで四十年のあいだ荒野で羊飼ひとなり、あなたがたの不信の罪を負うであろう。あなたがたはかの地をさぐつた四十日の日数にしたがい、その一日を一年として、四十年のあいだ自分の罪を負ひ、わたしがあなたがたを遠ざかつたことを知るであろう』」(民数記十四〇二十六―三十三参照)。

それであるから、ヨルダン川をわたる時が来たときには誠実をかえなかつた二人の男ののぞき、エジプトを出てきたおとなたちは死んでしまつていた。モーセとアロンでさえも約束の地へ入ることを許されなかつた。

イスラエル人は四十年間不平を言いつづけ反抗の精神を示した。彼らは、自分らのために折々主なる神があらわしたもうた大きなあらわれを理解しなかつた。主なる神は荒野の中でマナをめぐみたまひ、肉が欲しいとき

わいだときにウズラを与えたまい、水が欲しかったときに泉を奇蹟的に見つけさせ、イスラエルのためにあらゆる方法で愛と力とをあらわしたもうた。主なる神はこれほどにしたもうた上になおイスラエル人を愛して大きな約束を結びたもうた。

ところが、モーセがシナイの山にのぼって四十日間おりて来なかつたうちに、イスラエル人はそむいて、エジプト人のいつわりの神を礼拝するようになった。モーセがシナイの山にのぼって行ったとき、神は石の板の上にするし或る誠命をモーセにお授けになつた。モーセは山をおりて来てイスラエル人がそむいて邪神を礼拝しているのを見ると、これらの石の板を地になげつけてくたいてしまった。その石の板の上には何がしるしてあつたか。その石の板の上には「完全な福音」に関する数々の誠命がしるしてあつたのだ。モーセがこの石の板をくたいてから、主なる神はモーセを山へよび返し、二度目に石の板の上にするし誠命をお授けになつた。この二度目の石の板には、最初の石の板にしるしてあつたことと同じことがのつていたか。そうではなかつた。必ずしも全部同じことではなかつた。現在ひろく世に行なわれている聖

書には、この二度目の石の板の上には、最初の石の板の上にするしてあつたと同じことがしるしてあつたと述べてあるが、予言者ジョセフ・スミスに下つた啓示によってわれわれは、この二度目の石の板の上には、最初の石の板の上にするしてあつたことがみなつていたわけではなかつたことを知つている。最初の石の板の上にはメルケゼデク神権の祝福にかかわる福音の権能がしるしてあつた。もしもイスラエル人が真面目な信仰をもって最初の石の板を喜んで受けとつたなら、イスラエル人はメルケゼデク神権の祝福と福音に関する明瞭な原則とをもつて居たであろう。主なる神はこの誠命をとりかえたもうたので、われわれは今「出エジプト記」にしるしてある通りの誠命をもつて居り、メルケゼデク神権がどの男子にも授けられるという祝福がとり去られてしまった。

神の命によつて予言者ジョセフ・スミスがあらわした改訳聖書の中には、この二度目の石の板について次のようにしるしてある。

「主はモーセに言われた。あなたは前のような石の板二枚を切つてつくりなさい。わたしはあなたが砕いたはじめの板にあつた律法のことばをそれに書くであろう。しかしそれ

はじめの板にあつた通りではない。わたしはその中から神権を取り去るからである。従つてわたしの聖なる神権と神権のさだめと神権の儀式とは彼らに与えない。わたしが彼らの中へ行つて彼らがほろぼされないためである。

「しかし、わたしははじめのような律法を彼らに与えるであろう。しかし、それは肉体のいましめにかかわる律法である。わたしは怒つて、彼らがこの世に在るうちわたしの前に来ないよう、わたしの休息に入らぬように誓つたからである。それであるから、わたしがあなたに命じた通り、朝にそなえをし、朝のうちにシナイ山にのぼつて、山のいただきでわたしの前に立ちなさい」(ジョセフ・スミス改訳聖書、出エジプト記三十四〇—一一二参照)。

それであるから、われわれは、イスラエル人が神にそむいたためにはじめ提供された祝福を失なつたことがわかる。しかし、もしもイスラエル人が忠実であつたなら、完全なる神権をイスラエル人に与えることが神のみことであつたことを忘れてはならない。イスラエル人は完全なる神権を与えられなかつたから、小神権と肉体にかかわる「俗世の律

法」を与えられた。

われわれは、イスラエルの歴史のはじめからずっと「贖い主」の来りたもうまで、聖なる神権の祝福が制限されていたことを忘れてはならない。聖なる神権はイスラエルの族にひろく与えられはしなかつたが、メルケゼデク神権が授けられる何人かの忠実な男がかならず居なくてはならなかつた。予言者はすべてメルケゼデク神権を帯びていたが、予言者ジョセフ・スミスはその各々の場合、神がとくに任命したもうたのであると告げている(「予

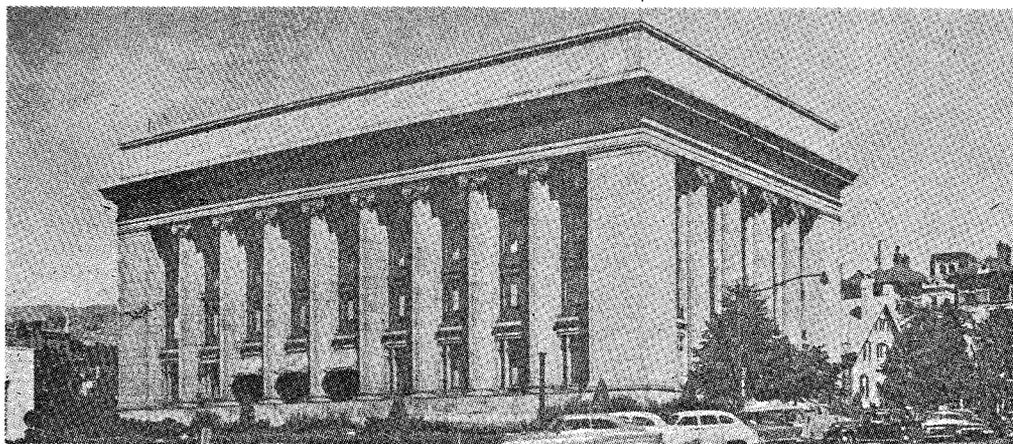
言者ジョセフ・スミスの教え」百八十一頁参照)。

イスラエルの歴史を見ると、確認の儀式やそのほかの儀式をとり行なう神聖な権威と権能とを帯びている予言者が一人も居なかつた時はない。エライジャは「完全な神権」を授けられた最後の古代予言者であると言われている。エライジャは天を閉ぢると雨が降らないう権能をもっていた。エライジャはまた天から火を呼び下し、やもめの食物をふやし、やもめの息子を蘇生させる権能をもっていた。

それであるから、イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエルのようなほかの予言者たちもメルケゼデク神権を授けられていた。これらの予言者は民の中で神権の儀式をとり行なうことができたが、イスラエル人が約束の地へ入ったときから「救い主」が降臨したもうた時に至るまで、イスラエルの族の中にはひろく一般にこの権能が与えられてはいなかつた。しかし「救い主」が来りたもうて「完全なる福音」と聖なる神権(大神権)が回復されたのであつた。



6



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史料

46

第三部 オハイオおよびミズーリ時代 第二十六章 ミズーリからの追放

(千八百三十八―千八百三十九年)

八、裁判地の変更。千八百三十九年四月十五日、兄弟たちはデブリス郡からブーン郡へ裁判地を変更するという知らせをパーチ判事から受け、また判事は「訴訟記録移送令状」をつくったが、それは月日も姓名も場所も何ものつていなかった。とらわれた兄弟たちは二頭立ての馬車とそれに必要な馬と、郡治安官のほかにも四人の男とでブーン郡へ護送される支度がととのった。このときとらわれ人となっていた兄弟たちはジョセフ・スミス、ハイラム・スミス、ライマン・ワイト、カレブ・ボールドウィン、アレグザンダー・マクレーの五人であった。この五人をつれた一行は午后ガラチンを出発してその日のうちにダイアーマンまで行き、その夜はモリン判事の所で野営した。あくる日一行が二十マイルほど行ったとき、ウイスキーをジョッキに一杯手に入れてきて、護送する者は一人だけのことしてみなこれを飲んで酔っぱらい寝てしまった。するとこのこった郡治安官は、とらわれになつていた兄弟たちにあの「移送令状」を見せて次のように言った。「パーチ判事は君たちをけつしてブーン郡へつれて行くな、またけつして移送令状を見せるなど言つたよ。だからわしはウイスキーをたっぷりやって寝てしまうから、君らはしな」と思ふことをするがいい。

九、逃げる。兄弟たちは護衛たちから馬を二頭買い、一頭の代金は洋服ではらい、一頭の代金は自分たちの紙幣で支払った。四人

の護衛が寝床へ入ってウイスキー機嫌でぐっすり眠ってしまったと、のこった一人は馬に鞍を置くのを助けて兄弟たちを出発させた。兄弟たちの二人がまず馬に乗ってあとの三人は徒歩でこれにつづき、時々交代して旅をつづけて行った。これについてハイラム・スマスは次のように言った「われわれは裁判地の変更をイリノイ州であると見なして九日か十日旅をして行くうちにアダムス郡のクインシーに到着した」。彼らが家族と再会して見ると家族の者はみな健康であったが、ミズーリの地から迫害の上追ひ出されたために貧困の状態で在った。

十、「仕組まれた計画」。リバティーの獄吏であったティララーが囚われ人であった兄弟たちに語ったところによると、聖徒たちに加えたいろいろの迫害は、知事から下の役人に至るまでその迫害に加わったいろいろの役人たちが仕組んだ「陰謀」であった。その「陰謀」は千八百三十八年の始めのころに最初計画されたが、市民軍がカルドウエルおよびデビース郡に住む聖徒たちを攻めるために派遣されたとき始めて完全に実行に移されたのであった。兄弟たちがリバティーの獄からデビース郡へ移されるじき前にティララーが言った「しかし、君たちは心配するにおよばぬ。知事は君たちを釈放する計画を立てているからだ」と。また「知事は今やこれまでの取扱いを充分に恥じているから、もしも勇気があるなら喜んで囚人たちを釈放するであろう」とも言った。もちろん陰謀者たちはおどろいた。彼らは予言者とその仲間の人々を逃がす計画を立てなかつたが、それは後悔をするとか良心に責められるとかいうためではなくて、州の内外における公衆の感情をおそれたためであった。

宗教上の礼拝についてすべての市民に自申を与えようとする自分

たちの憲法を支持し尊重するという誓いのことばによって誓約をしたミズーリの役人たちの卑れつな行為はほかの州にもひろく知れわたった。

註。ミズーリ州の憲法には次の通りにしるされている。

第四条。すべての人々は自己の良心に従い全能の神を礼拝する生れつきの破り得ざる権利を有する。従って何人といえども強制によつて礼拝の場所を建て、支えまたはこれに出席させらるることなし、もしくは強制によつて福音を説く教職者もしくは宗教教師を維持させらるることなし。いかなる人の権能も良心のもつて権利を支配干渉することなし。また人が他人の宗教上の礼拝を妨げざるかぎり、何人といえどもその宗教上の告白もしくは感情をききつげられ、干渉され、拘束されることなし。

第五条。何人といえどもその宗教上の意見のためにこの州内における責任あるもしくは利益のある職務につく資格を失なうことなし。また法律はいかなる教派もしくは礼拝の様式にもえこひいきをすることを得ず。

西部イリノイの市民たちはさすらいの聖徒たちを温い心で歓迎し、聖徒たちに自分たちの間で家庭をつくれとすめた。また、アイオワ州の知事ロバート・ルカスは手紙を寄せて、ミズーリ州で受けたモルモン教徒の取りあつかいに反対すると激しい調子で語った。そして彼はアイオワ地方の境界の内部に家庭をつくることを聖徒たちにすすめた。これらのことはみなミズーリ州に居る暗殺者たちに影響を与え、彼らをして恐怖にふるえあがらせた。ポッグス知事できえ、州にあびせられる非難にいや気がさして、ジョセフ・ミスとその仲間の囚人たちを喜んで釈放しようとする心境にまでな

つたが、このようなことをすると、自分が前にした行動が不法であったと認めたと人から解釈されることをおそれた。そこで、彼はジョセフ・スミスそのほかが逃げることをできるように手配をし、その結果ジョセフ・スミスたちが世人の前に法から逃亡した者としてあらわれる方をえらんだ。

十一、パレー・P・プラットの逃亡。ジョセフ・スミスとその仲間がリバティに送られた当時、パレー・P・プラット、モリス・フェルプス、ルーマン・ギブス、ノーマン・シャラーおよびダウイン・チェース等の長老は、ジョセフ・スミスたちと同じ告訴を受けて裁判をされるのを待たためりッチモンドへ送られた。この牢獄で彼らは多くの言うに言えない患難と剝奪を受け、千八百三十九年の四月三十日まで六箇月間苦痛をしのんだが、この日始めて審問を受けるためにレイ郡の「大陪審」の前につれてこられた。この陪審の一団を統轄していたのはかの悪名高いオースチン・A・キング判事であったが、ほんの少年であったノーマン・シャラーとダウイン・チェースとを釈放し、老人であったキング・フォレットを囚人の名簿に加えた。そして彼らに対し裁判地を変更することがすでに許されていたので、兄弟たちはブーン郡のコロンビヤへ送られた。その牢獄に入れられた。とかくするうちに自由を得ようと思つてルーマン・ギブスが背教をした。しかし、ずるい役人たちは、ギブスを前よりもずっとしんしゃくをして取扱つていたとは言え、背教以前の兄弟たちをスパイさせるためにまだ牢獄の中につないでいた。千八百三十九年七月四日、プラット、フェルプスおよびフォレット長老たちは、オルソン・プラットとジョン・W・クラークという青年（フェルプス長老の義弟）の助けを外部から得て、手

に汗を握るような奇抜な方法で逃亡をした。逃げてからフォレット長老は再び捕えられたが、ほかの二人は逃亡をすずけ、多くの患難辛苦を経てイリノイ州へ着き各々の家族とめぐり会つた。フォレット長老はまた投獄されて鎖につながれたが、何のともないことが証明されて一二箇月中に訴訟が却下された。

十二、追放された人々の出発。大管長会を組織する三人が全部獄に入れられてしまったとき、聖徒たちをミズーリ州からほかへ移す重荷が十二使徒会長ブリガム・ヤング長老の肩へかかつてきた。千八百三十九年一月二十六日一般市民の集まりがファーウエストで開かれ、聖徒たちをミズーリ州からほかへ移すための決議を起草し、方法を考えるために、委員会が組織され次の兄弟たちが選ばれた。その兄弟たちとはブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、ジョン・テイラー、アランソン・リプレイ、テオドーア・タレー、ジョン・スミス、ドン・カルロス・スミスの七人であつた。この委員会は手に入るだけの財産を集め、貧しい人々を移すための計画をねるために働き始めた。後になって移動に関する委員会が設置されたがその委員の人々は次の通りであつた。ウイリヤム・ハンチントン(委員長)、チャールス・バード、アランソン・リプレイ、テオドーア・タレー、ダニエル・シャラー、シャドラク・ラウンデイ、ジョン・ナサン・H・ヘール。ところがミズーリ州を出るところが冬のうちに始まつたので、多くの聖徒はイリノイ州のクインシーに集まり、そこで親切な歓迎を受けた。彼らは前に家財を盗まれ略奪されていたため極端に貧乏になっていたから、千八百三十九年の春にならぬうちに退去することのできない教会員が多かつた。そのうちに四月になつたので、悪質な暴民たちは四月の六日に会議

を開いて、モルモン教徒を一人のこさず四月の十二日までにカルドウェル郡から出て行かせると決議をした。それで、手に入れることのできるかぎり曳車用の牛馬を集め、すでにイリノイ州へ行っている教会員からの助けをねがった上、ファーウエストにのこっている聖徒たちはミズーリ州から旅路についた。そして三十家族が、クインシーへ向う途中四月の十四日までにファーウエストを去る二千五百マイルのテネシス・グロヴへ移った。一方、委員の大部分は最後までファーウエストにのこっていたが、二月の半ばころブリガム・ヤング十二使徒会長もファーウエストを立ち去らざるを得なかった。彼の命をねらっているミズーリ人たちの怒りから自分の生命を守らねばならなかったからである。そしてイリノイ州の側から聖徒たちの居るべき位置を指令した。

千八百三十九年四月十八日（木曜日）ヒーバー・C・キンボール長老は委員会に移動に関する通告を行ない、直ちに各自の仕事のうち切り退去するように命じた。彼らの生命が容易ならぬ危険に瀕していたからである。武装した一部隊がテオドーア・ターレーを射殺するために彼の家へ行った。これと同様の行動が委員会ほかの会員たちにも取られ、多数の暴徒がファーウエストの路上でヒーバー・C・キンボール長老を殺そうとした。このときすでに教会の会員はみなファーウエストを立ち去って、多くの者はリッチモンドとミズーリ川を経てクインシーへ行った。まだのこっていた委員会の会員は一時間のうちにその場を立ち去れと言われた。そこで急いで持てるだけの品物をかき集めて立ち去った。すると暴徒たちはまだ略奪を受けないで、のこっている家の家財を略奪し始めた。ボッグス知事と彼を助ける者たちは大勝利を収めた。末日聖徒は

知事の命によって根だやしにされるか、またはミズーリ州の境界から追い出されてしまった。まだのこっているのは獄に入れられていた者たちだけであって、彼らを釈放する日も間近であった。

十三、予言の成就。千八百三十八年七月八日、ジョン・テイラー、ジョン・E・ページ、ウイルフォード・ウッドラフおよびウイラード・リチャード・グレイヴを使徒に召すという啓示が与えられた。ジョン・テイラーとジョン・E・ページの二人は千八百三十八年十二月十九日にファーウエストで開かれた集りてブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールによって按手聖任された。この啓示（教義と聖約）第百十八章）の中で使徒たちは千八百三十九年四月二十六日にファーウエストにおける神殿建築地で聖徒らと告別をせよとの命を受けた。四月になって聖徒たちは四散し、十二使徒会の会員たちも同様に四方へ移った。四月の五日、暴徒サムエル・ボガートはさきに背教したジョン・ホイットマーそのほか二三の背教者を伴って、さきに移動するとき委員会が使用していた室にあらわれ、この啓示をテオドーア・ターレーに読んでみせた。こんな啓示が成就してたまるものかと大笑いに笑いながら彼らはターレーのところへきて、ジョセフ・スミスと縁を切れ、お前の気がちがっているかと思ったらそうしなくてはならんと言った。そして背教者たちは言った「十二使徒は世界中に散ってしまった。勇気があるなら戻ってきてみよ。戻ってくるなら殺されるにちがいない。あの啓示は成就するはずがないから、お前はもう信仰をすてたらどうだ」と言った。ターレーはこれを聞くに飛びあがって言った「神の御名によって言う。あの啓示は成就するのだ。彼らは大いに笑ってターレーを軽べつした。このときジョン・ホイットマーは恥じてその顔を伏せて

いたが、会話がかわされていたうちにターレーが「君がモルモン經についてあかしをしたことは今でも真実か」と聞いたのに答えて彼は「今僕は言う。あのとき僕は本当にあの版に手を触れて見たが、版の上には両面にこまかい字が刻みこんであった。僕は手でさわってみた」と言ってから、どのように輪でとじてあったかを話してきかせたのち「あの版は或る超自然力によって僕に見せられたのだ」と言った。

四月の二十六日がくると、使徒たちもファールウエストの神殿敷地へやってきた。二十六日の朝早く、これらの兄弟たちと二三人の聖徒は神殿敷地に集り、命じられた通り彼らの使命に関する事務を処理して行った。その時の議事録には次のようにしるしてある。

「千八百三十九年四月二十六日、十二使徒、大祭司、長老、祭司等がファールウエストにて開きたる会議において次の決議採たくさる。

決議。以下の者たちは以後末日聖徒イエス・キリスト教会の正会員として待遇することなく前記教会より破門さる。氏名次の如し。

アイザック・ラッセル、メアリ・ラッセル、ジョン・グッドソンおよびその妻、ヤコブ・スコット（初代）およびその妻、アイザック・スコット、ヤコブ・スコット（二代目）、アン・スコット、ワルトン姉妹、ロバート・ワルトン、カバノー姉妹、アン・ワンレス、ウイリヤム・ドウソン（二代目）、ウイリヤム・ドウソン（初代）、および妻、ジョージ・ネルソン、ジョセフ・ネルソンおよび妻、母、ウイリヤム・ワノックおよび妻、ジョンサン・メイナード、ネルソン・メイナード、ジョージ・ミラー、ジョン・クリッグスおよび妻、ルーマン・ギブス、シメオン・ガーナーおよびフリーボーン・ガーディー。

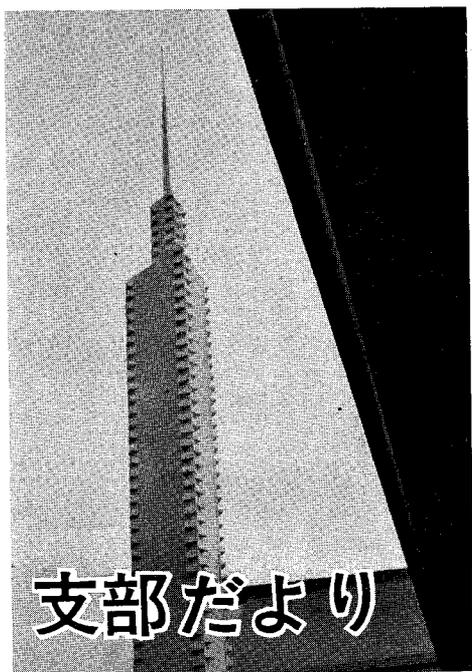
註。千八百三十九年三月十七日イリノイ州クインシーで開かれた大会で、ジョージ・M・ヒンクル、サムソン・アヴァード、ジョン・コリル、リード・ベック、フレデリック・G・ウイリヤムス、トマス・B・マリーシュ、バー・リッグズ、そのほか数人が破門された。

評議会は次に神殿建築地点に移され、次の事務処理されたり。まず十二使徒の使命に関する讚美歌一部合唱。つづいて、神殿建築の職長アルフュース・カトラー長老は、啓示の通り一箇の大石を東南の隅近くへ転がし行きて神殿の基礎を置きなしたり。

十二使徒の出席者次の通り。ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、オルソン・ブラット、ジョン・E・ペーじ、ジョン・テイラー。このうちジョン・テイラーはウイルフォード・ウッドラフとジョージ・A・スミスを十二使徒の職に按手聖任し十二使徒定員会の会員とせり。この二人はさきに背教したる二人の者の席を充すため、さきに大管長会によりて指名され、十二使徒会によりて受諾され、教会員によりて承認されたる者なり。ダルウイン・チェースとノーマン・シャラーの二人「七十人」の職に按手聖任さる。この二人はイエス・キリストの福音のため監禁され居たりしリッチモンドの獄舎より釈放されしばかりの者なり。

十二使徒会の会員たち一人一人が声をあげて祈りをささげ、讚美歌が唱われてから、使徒たちはそこに集った聖徒らにわかれを告げてひとまずイリノイ州におもむき、後そこから大英帝国へ彼らの使命を果すために旅立った。このようにしてミズーリ州における末日聖徒の歴史の頁は、いつの日か再び開かれるまで閉じられたのである。

（予告。次は「ノーヴー時代」ノーヴーの創立のところから始まります。）



支部だより

旭川支部

皆さん今日は。旭川からお便り致します。今、旭川ではつじが満開です。そして各々の家の庭は色とりどりの、すみれやチューリップが、わがもの顔に咲きほこっています。灰色の冬が過ぎて雪解のドロ道がなくなると後は明るいびのびとした夏が待っています。す。おかげで会員達の心も明るくなって、皆大いにハッスルしております。

今日は、旭川支部の扶助協会を紹介し旭川支部は全体をながめて見ると、兄弟よりも姉妹の方が活発なように見受けられます。私が姉妹ですからそう感じるのかも知れませ

んけれど、今度は兄弟の事も良く観察する事にします。こんな事を書くくと兄弟にくまれるかな。というわけで、もちろん扶助協会は活発です。毎週火曜日十名平均で開かれます。声がきれいで歌の上手な姉妹が多いものですから、讚美歌をうたわなくても良い集会の際にも時々うたいます。彼女達の

山形支部

なく、出来なかった人は次回に廻す事にしました。それでも姉妹達は、まだ完成していない縫いぐるみの使用途について思いをめぐらしてあります。バザーに出品して利益を得るというガッチリ型から施設を訪問して恵まれない子供達にという奉仕ロマンチック型などさまざま。結局はまだ決まっていませんけれど、有効に使われる事だけはわかっていました。このように旭川の扶助協会は毎週活発に行なわれております。そして、会長的一条姉妹は、まだ若く行動派ですので、まだまだ扶助協会は発展すると思います。姉妹の事ばかりホメてしまいましたが兄弟も活発です。今度は兄弟の事を良く観察して兄弟をホメてお知らせします。では又。

の声は、本当にすばらしい讚美歌になります。おいのりが済むと、みたまに満たされた雲困気になって、熱心にレッスンを受けます特に仕事会の時は格別です。おしゃべりは、もちろんですけれど、讚美歌とび出してコーラスになる時もあります。仕事の方のお腕のあやしい人は少しばかりしゃべりますけれど、でも、この間五月の第二火曜日の仕事会では太田原姉妹の教師によって、ワンちゃんの縫いぐるみを作る事になりました。彼女の作ったかわい見本を見ると、姉妹達はどうしてもそれを作りたくて、たどたどしい手つきでもそれを作りたくて、たどたどしいた。でも時間がなかったので完成した人は少

いつも土曜日の二時頃ともなれば賑やかにGIパーティーの開幕となります。近頃いやに熱心に出席する兄弟が殖えたとあって喜こんでいたならんのことない六月十三、十四の両日にそなえて一人でも多く仙台支部の兄弟達を廊下にはみだすことなく押しこめる為に今私達は二ツ三ツ新しい部屋を長老達の指導により建て作っているからなんです。又汗を流した後は十三日のMIAの時大々的に山形名物、花笠おんどを披露することになりあてもない、こうでもない。手と足が一致しないなど勝手な事をいっては名コーチ滝沢とみ姉妹を嘆かせています。「練習の次の日は体中いたい」とのことですもの生

支 部 だ よ り

おおい、砂をかぶせて約四時間かかって蒸し焼きにします。この日、人間共のイケニエとなったブタは体重六十キロもあり、出席者も百名くらいを見込んでいたのですが、七十名ほどしか集らず、さすがのサムライ達もいささか持て余し気味で、料理が半分近く残ってしまったので、その後始末をつけるため宣教師達はその後五日の間、三度の食卓にブタを出され、大弱り。この料理の指導をするためわざわざ京都から来られたベル長老達、そして十五日の晩から泊りがけで、夜も覆ずに昼寝しながら準備をしてくれた多くの兄弟達に本当にゴクロウサン!

また、この五月から毎土曜日の夕方、扶助協会で生け花クラスを始め、末生流の先生、稲垣兄弟の指導のもとに約十名の姉妹達が集って、楽しい雰囲気の中に日本女性としての品格とセンスを磨いております。

ブタを丸焼きにする我が支部のガメツイ兄弟達。生け花を習う我が支部の優雅なる姉妹達。そして、姉妹達にはいつもやりこめられている兄弟達。ではまた。

室 蘭 支 部

全国の兄弟、姉妹、御気遣いかがですか? 室蘭支部の兄弟、姉妹も元気に教会に出席しております。

四月二十九日(水)この日はMIA主催によりピックニックに地球岬とチャラシナイ(市内の観光地)に約一時間ほどの道のりですが、この日はすばらしい春日よりで野も山も



新芽で創造主は自然に還れといわんばかりに春の光をなげかけておる青空の下を兄弟、姉妹及び会員以外の人々とお話しをし、ウクレレを引き、また管理者である川上輝男兄弟と歌をうたったりして約一時間の道のりを四分ほどで目的地に着。

すぐバレーボールを始めると男性がほとんどで女性は昼食にしましよと連発し男性を誘惑します。さすがの男性諸君もあのウグイス女王の声にはかなわず、さっそく適当な場

所を捜しにかかる誰かが、「あの」高いアントナノ所がいわとったので、その所に行くとしたかに三十坪ほどの広い場所ですが、なんと、その裏側は「ササヤブ」を隔て目もくらむばかりの断崖絶壁、しかし適当な場所もないのでしかたなくその場で食事(役員は十二分に監視)若い宣教師の塩沢長老は顔全体が口でできていてような顔をして食べており、YW会長と吉田養子姉妹のサービスのよいこと。その後チャラシナイの浜辺でウニ、カイ(貝)などだったり、歌をうたったり城谷登志子姉妹と池本ヒサ枝姉妹は昼寝としゃれこみました。本当に健康でいることを感謝せずにはおられない一日でした。

今度MIAの役員が新しく組織されましたのでお知らせします。

- | | | | |
|-----------|-----|-------|-----|
| Y M I A | 会 長 | 日向 宏 | 兄 弟 |
| | 第一副 | 高橋 弘 | 兄 弟 |
| | 第二副 | 佐藤 正喜 | 兄 弟 |
| Y W M I A | 会 長 | 中村 幸子 | 姉 妹 |
| | 第一副 | 平末 和子 | 姉 妹 |
| | 第二副 | 小用 直子 | 姉 妹 |

- | | | | |
|-------------|-----|-------|-----|
| 前 Y M M I A | 会 長 | 神野 房公 | 兄 弟 |
| 前 Y W M I A | 第一副 | 平末 邦子 | 姉 妹 |
| | 第二副 | 岡崎 和子 | 姉 妹 |
| | 書記 | 永井 一代 | 姉 妹 |
| | 書記 | 直子 | 姉 妹 |

今日までの働きを感謝するとともに、今後新しい役員で活気あるMIAに育てて行きますのでどうぞ各支部の皆さんよろしく御指導と御鞭撻のほどお願いします。

群馬支部

全国の兄弟、姉妹の皆さん、群馬支部が今、建築、と言うことに、どんなに大きな喜びを感じているかを、お知らせ致します。

今、モルモンは全世界的に建築に非常な躍りに見えています。プロックの壁は日増しに、どんどん伸びて行きます。そしてこの壁が、やがて真白な壁になって教会堂となり、それが私達のものになる喜びは非常に大きいものです。宣教師宅になる住宅は、すでに完成して、チェイスター監督夫妻が五月初めからその新しい家を使っています。茶色の屋根に真白の壁は心の奥深くまで、しみとうる清純な美しさを持っています。

私達は毎週火曜日、夜の仕事を持っています。夜の九時まで建築現場で建築宣教師と共に働く機会があります。私達はこれから毎週金曜日にも働くかと考えています。自分の手で助けることこそ、本当の喜びを持っていると思っています。私達は夜の仕事を「屋根型(トラス)」を作ったり、プロックの壁を磨いたりして、それはそれは楽しい時間を過します。

○十四日のMIA「ゴールド・エンドグリーンボール」では、黄色と練色でホールをきれいに飾りつけました。その日のオーブンナイトは、ソーシャル・ダンスなので男性は女性を誘うのが恥ずかしいだろうとの会長さんの心づかいから、自分(男性達)の持っている

物で、目じるしになる物をつづつ出して、女性はその中から一つ選んで取り、その持ち主の男性がパートナー。会長さんが一つ一つコールしながら、楽しく踊りました。○十五日はチェイスター監督夫妻の歓迎会。最初から最後まで日本の、初めて扶助協会の姉妹達で作られた、日本的な食事、そのあとで笹井、飯野、唐沢姉妹のコーラスでサクラクラなどの日本の歌、今井兄弟がフルートで讚美歌を吹いた時など、チェイスター姉妹は讚美歌を見ているなど、本当に楽しんでました。また琴の音に耳を傾けたり、八木節を熱心に見ていました。そして本支部部長から鉢植の木(本当は花束をわたさず、しょうが)が夫妻の手にわたされ、夫妻は感激していましたようです。

ここで少しチェイスター監督夫妻を紹介してみたいと思います。

ウォルター・チェイスター監督、デルタ・チェイスター姉妹。この二人はユタで生まれ、それからカリフォルニアに移りまして、七人の子供全部が結婚して居り、孫は二十四人居ります。督監はいろいろな教会の職をへて今は大祭司です。姉妹はステーキ部の図書員等をしていました。二人は今、新しい教会堂の付属の住宅に住んで居ります。

小野寺記

松本支部

兄弟姉妹の皆さんお元気ですか、僕達の支部会員も元気です。信洲の大町市という兄

弟姉妹の皆さん思い出す方がいらっしやると思いますが、あの有名な黒部ダムのあるアルプスの登山口の街です。人口はわずかに、三万七千人余りですが面積の中には遠く、槍ヶ岳の峰までが大町市に含まれています。北アルプス連峰をビューブの様にバックにひかえ清流、高瀬川のほとり、この環境に恵まれた僕達の街には、去年の九月小林繁治兄弟一家がモルモンとなって以来早くも、もう、五人の兄弟が誕生出来、その活動ぶりは素晴らしいと誇れます。この計九人の兄弟姉妹の中で四人が神箱を持っています。そして僕達は今小林兄弟の家で毎週金曜日の夜家庭集を開き、松本支部からノートン支部長、長老を招き、新しい求道者のために家庭集を続けています。遂この程までは毎週火、金の二回でしたが、いろいろ都合で一回になりました。これまでもなるには、今までいろいろな事がありました。三、四回来て消えて行く人、最後のレッスンが終り、イザ、ババスマと言った時親の反対で止めてしまふ人等、僕達も随分悩ました。しかし今尚一生懸命に家庭集会を受けている三、四人の兄弟がいます。これ程までに雪が降っても雨が降っても、十カ月間続けられて来たこの素晴らしい家庭集会は二人の長老は勿論、又小林都代子姉妹の情熱だと思えます。僕達はほとんど高校生です。考查の後など小林姉妹を中心に色々な事を話合います。何時も自分も忙しむ務めを持ち、疲れて帰るのに、明るい笑顔で僕達のどんなの上相談でも深い経験と、知識の中

支 部 だ よ り

から助言を与えてくれます。自分達の寮の様に、何時でも少しでも何かあるとなだらけうって小林姉妹のところへ行きます。僕達の優しい、又きびしい母上でもあります。今の頃兄弟姉妹の親睦を計るため皆で木崎湖・サイクリングをし、ハンゴオスイサンをやり楽しい一日を過しました。又農繁休み皆でアルバイト(田植)をやり、その中の幾分かを出し合って、教会建築資金にしました。僕達は遠いので毎週教会には出席出来ませんがなるべく毎月の第一安息日には特別でないかぎり出席する事に決めてあります。僕達が今一番悩んでいる事は、九月小林姉妹一家が新築される家が引越されて行く事です。お祝いすべきその日が僕達にとっては淋びしい日になるのです。それまでに大勢の会員を作り支部を作らなければ弱くなる。と僕達は今、ファイトのかたまりの様に団結し、モハンの行動の中において会員を探しています。又其の事を毎週集まって、長老の家庭集会の後で話合います。

甲 府 支 部

◇松本、甲府地区大会開かる

五月二十三日(土)
MIA大会に先だち親睦会が開かれ、松本からO.T.大会にやちて来られた兄弟達もあり、その心意気が甲府支部の若い兄弟、姉妹大分刺激されたようでした。よし!!やるぞ!!この意気がMIAの大会には発揮されてか、六十名余の参加を得、スピーチ、フォークダンス、日本舞踊、寸劇等、時間の経つのも忘れ楽しい一時でした。
五月二十四日(日)
東京より渡部兄弟、田中兄弟、小室兄弟、稲垣姉妹がいらつしやって、力強い証詞をさるとに勤勞奉仕宣教師となられ、その証詞は一同の心を強く動かした。甲府支部にあって神権者の少ないのを嘆いていたが、この時笠井兄弟は長老に聖任された。大会終了後、三人の姉妹のバプテスマが行われた。渡部兄弟の按手礼により新しい姉妹達は、真の幸福への門に入られた。

◇六月六日(土) フェロシッピング会開かる。

新しく若い兄弟、姉妹の手で甲府支部のフェロシッピング会が作られてから約二ヶ月経った。宣教師の大きな助けによって、その活動はスムーズに行われてきたが、この時はローラー・スケートが雨の為中止されて室内ゲームで楽しんだ。午後七時から、紹介をするため、多くの質問を出し、お互いに趣味、嗜好を知ることが出来た。又その人に対しての印象を語った。この機会に不活潑会会員も

見え有意義なものとなった。高校生を中心としたこの会は、前途多難ではあるが、真のキリストの精神に燃えて皆はりきっている。主は小さな手段によって偉大なことを遂しとげる。
第一、ニーファイ、十六

◇宣教師転勤

ベア長老 東京中央支部へ
新山長老 甲府へ
現在甲府支部宣教師

アシユビ長老 ニールセン長老
新山長老 ハウエル長老
以上(吉村記)

神 権

阿倍野

西の宮

穂刈 豊 (執)

関口 勝幸 (教)

向井 重雄 (教)

安久津 喜信 (教)

砂川 国昭 (祭)

河野 洋平 (執)

旭川

折戸 克己 (執)

服部 仁 (執)

長瀬 義明 (教)

木下 武男 (教)

岡町

中田 和彦 (執)

関根 弘瀬 (執)

福岡

有之 秀一 (執)

柴田 修男 (執)

坂口 武 (執)

松岐 和則 (教)

秋山 義明 (執)

川口 烈男 (祭)

横田 和助 (執)

野間 竜一 (長)

溝内 俊夫 (執)

吉沢 徹 (祭)

原 茂 (執)

甲府

西原 勲 (執)

東京西

呉橋 一誠 (執)

萩原 幸一 (執)

尾野之 紀 (執)

シヨウジ タダハル (執)

水口 良茂 (執)

京都

近藤 泰典 (祭)

山形

片山 ヒロシ (執)

小樽

山口 克介 (執)

滝沢 紘一 (祭)

室蘭

樋口 博 (祭)

東京北

那覇

広田 茂幸 (執)

葉師 茶一 (執)

中野 正之 (長)

西銘 務 (祭)

新潟

田卷 健三 (祭)

東京南

下地 正二 (祭)

新田見

正 (教)

神成 弘昭 (祭)

浅野 時夫 (祭)

当間 健二 (祭)

大矢 日義 (執)

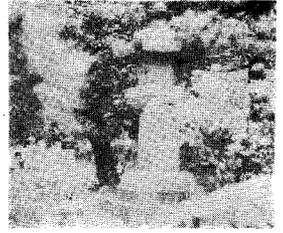
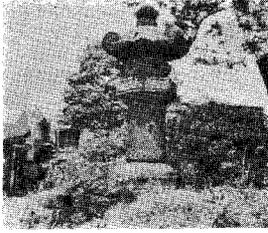
札幌

江藤 隆文 (執)

田中 清 (執)

赤間 洋 (祭)

水野 圭 (教)

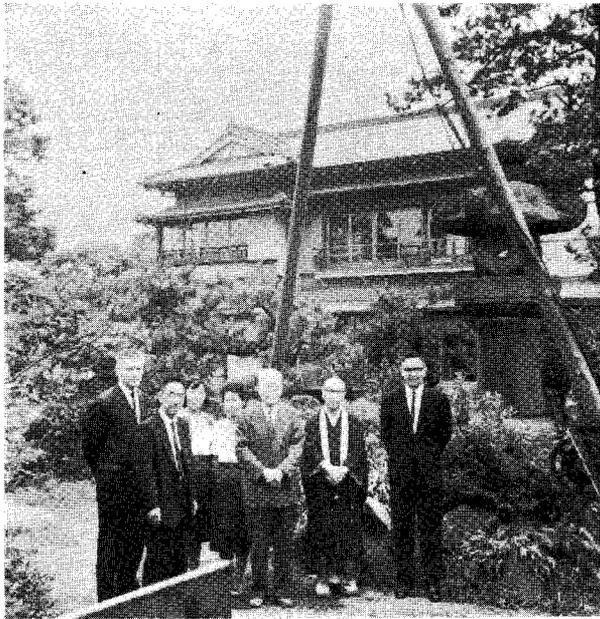


主の慈悲により十一基の石燈籠

無事寛永寺に還る

主は……すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの中にいます。すべてのものの父なる神は一つである。

印度に生れたお釈迦さんは道を説き、
「我は道なり」と宣言された主の道を備えられました。近くステーク部センターの建築されんとして居ります。参道の中央支部の庭に鎮坐しまして居られた十一基の石燈籠が、アンダーセン伝道部長を通じ大管長会の理解と好意により、無事そろって我が家である上野寛永寺に還ることが出来たことは誠にめでたく寛永寺側に於ても大変喜び感謝されたのであります。この石燈籠は徳川三代將軍家光公に当時の諸代名が奉献した由緒あるものであります。



青山北町六丁目三十四番地のこの中央支部の敷地は昭和三十五年三月十一日、アンドラス伝道部長の時に当教会が井端基之氏より購入したものでありますが、その日本式な素晴らしい庭園は忽ちにして信者宣教師たちの注目を惹き、毎年夏に伝道部系図委員会で主催する日米親善ボンダンス・パーティーなどに絶好の場所として親しまれて来たのでした。この庭に十一基の由緒ある石燈籠が鎮坐し給い、先祖の霊を慰める盆踊りに睦み合う日米会員を黙念として参観していましたが、この程、満足して古堂の寛永寺に戻って行かれたのです。

過去帳、石碑、石燈籠などを貴重な系図資料として重視しています。当教会が近い将来に、寛永寺始め広く日本国内に散在する数千万の寺院仏閣に協力を頼まねばならない時に、この美挙がなされたことは双方にとって誠に喜ばしいことであります。

地方部評議員の丹羽三吾兄弟はこの庭に入った時直ちにこの由緒ある石燈籠に着目し、同じく評議員の佐藤竜猪兄弟に相談し佐藤兄弟はこれを宗教会議にかけ売却すれば時価数千円と言われるこの十一基の石燈籠をアンダーセン伝道部長を通じ大管長会の許可を得て無料で本籍の寛永寺に返還する運びとなりました。

六月十五日午前十時、最後の十一基を搬出するに当ってアンダーセン伝道部長又寛永寺側から林光院住職の古宇田亮宣師を迎え、佐藤丹羽、渡部三評議員列席して返還式を挙行し佐藤兄弟は次のような祈りを捧げられたのであります。

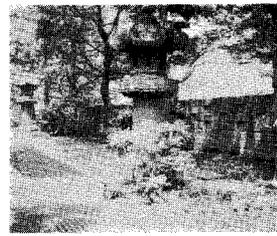
「天にまします父なる神よ

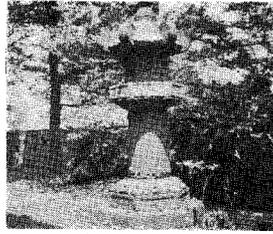
われら今日御前にかしこみてみめぐみを感じ奉ります。この国において福音が日々に高まり御国が日々建設されるのを目にして心からみめぐみを感謝し奉ります。ねがわくは、大管長会を始め幹部の方々を祝福したまわんことを。また伝道部長およびその家族ならびに宣教師一同を祝福したまひ、彼らの健康を守り、災をさけ、福音のために喜んで働らくことを得したまへ。

父なる神よ、御神がつねにこの伝道部を祝福したまひみわがが日々伸び行くことを感謝し奉ります。またみめぐみによってこの立派な敷地を買入れることを得、その上に近く教会堂の建てられることを感謝し奉ります。

父なる神よ、わが教会がこの敷地を購入したとき、ここに十一基の石燈籠があり、それが調査の結果、もと東京都台東区東叡山寛永寺に属していたことがわかりました。これらはその上に刻まれてある通り、徳川三代將軍家光公の墓前に徳川家の家臣がその霊をなぐさめるために寄進されたものであるの、われわれ一同それらを考慮した結果大管長の認可を得て、東叡山寛永寺に寄進することとなりました。しかるに、寛永寺当局の快諾を得、本日をして十一基を全部移し終る運びとなりました。

ねがわくは、かつて福音を聞きしが受け入れることのできなかつ





た人々の上に、この行ないが彼らに靈界に於て福音を受け入れる一つの機会とならんことを祈り奉ります。またこれを見、このことを耳にする多くの人々が「父の心をその子らに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」というマラキの予言が現実成就していることを知り、われらが福音により

現世の人々のみならず、死者の救いも心にかけていることを知るように。これにより、これらの燈籠がもともとその属したる所に帰り、またこの燈籠を寄進された人と寄進した人々の霊が安らかなるを得、福音の光に照らされて諸人ごとく祝福を得んことを、

イエス・キリストの御名により祈り奉ります。
アーメン

尚この美筆は稀有の事としてNHKテレビ、朝日、毎日各社の記者及びカメラマンが駆けつけ、ニュースに又各新聞に報道されたのでした。

上野寛永寺ご開山の慈眼大師、天海大僧正は、日光の東照宮の宝塔を造るに当って、探し出された不動の大岩石を、石にも靈あらば妙果をよろこばう。妙法蓮華経と唱え、それいっきにひけ。と命じてさしもの大石を二ヶ月ばかりで目的の場所にひき宝塔を立派に

完成されたとのことですが、今主の慈悲によって寛永寺に戻って行くこの十一基の石燈籠を靈界で如何に見て居られることでしょうか。

寛永寺を始め多くの神社仏閣にある貴重な系図資料が震災被災などによって次々と失われて行く恐れのある時、世界中のこれらの記録の永遠な保存文庫である系図協会がマイクロフィルム作業を早く本伝部にも開始されんことを切に願うものであります。

アンダーセン伝道部長は式が終つてから、古宇田師に将来当教会の系図協会のマイクロフィルム作業に寛永寺が御協力下さるなら当教会は喜んでフィルム写一部を寄贈するでしょうと、更に将来の大きな好意を約束されたのであります。

私たちは今回の美筆が機縁となつて将来私たちの先祖の救いの大事業に当って、神社、寺院仏閣すべてが動員協力されるように切に乞い願ひ、且つ心から祈るものであります。

伝道部系図委員長 渡部 正雄

註 本文中の宗務会議に於ける決議事項は次の通りであります。

第四十一回責任役員会議々事録

一、日時 昭和三十八年十一月十五日

二、場所 東京都港区麻布広尾町十四番地

三、出席役員氏名

代表役員 ダウエン・エヌ・アンダーセン

責任役員 佐藤龍猪

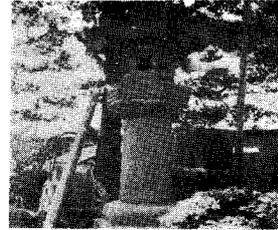
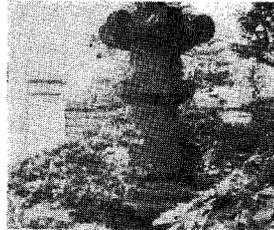
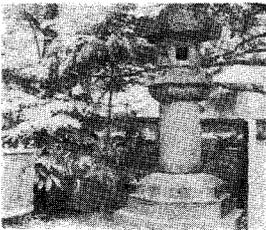
責任役員 テッド・プライス

四、議案

(二) 東京都港区青山北町六丁目三十四番地の教会境内地内にある下記石燈籠を東京都台東区上野桜木町十番地寛永寺に無償供与すること。

石燈籠十一基

- 1 銘刻 奉獻石燈籠武州東叡山大猷院殿尊前
慶安五年四月二十日從五位下内藏助藤原姓加藤氏朋友
- 2 銘刻 奉獻石燈籠而基武州東叡山大猷院殿
慶安五年四月二十日從五位松平備前守源隆綱
- 3 銘刻 慶安五年壬辰年四月廿日
從五位下藤原姓稻葉氏能登守信通
- 4 銘刻 慶安四年十二月十日
從五位下分部伊賀守源姓嘉治
- 5 銘刻 慶安五年四月廿日
從五位下真田内記 滋朝臣信政
- 6 銘刻 慶安五年四月廿日
鳥居主繕正 從五位下平忠春
- 7 銘刻 慶安五年四月廿日
從五位下但馬守多良姓山口氏弘隆
- 8 銘刻 慶安四年十二月廿日
水野出羽守源朝臣忠職
- 9 銘刻 慶安五年四月廿日
從五位下脇坂淡路守藤原安元
- 10 銘刻 慶安五年四月廿日
五島孫次郎源朝臣盛次
- 11 銘刻 不明



建築活動と証詞会

京浜地区アロン神権回復記念祝会

五月十六日



一人の高校三年生の兄弟が立って云った。「私は今アロン神権の祭司の職にあります。バプテスマを受けてからのこの一年間は、私にとって本当に進歩の年でした。私はこれまで、こんなに進歩する機会を持った事はありませんでした。私は神様が真実に生きておられることを確信致しております。神権が確にこの時代に、私たちに与えられていることを知っています。与えられているこの神権に、私は心から感謝いたしております」。

彼の頬は赤々と輝き、その目にはキラリと光るものが見えた。彼の証詞を聞く人々は、全身からでてくる固い信仰の表われを、心の隅々まで感じていた。

パネル板をとりはずした、荒い素地のままのコンクリートの壁、ザラザラしたコンクリートの床、窓もなにもないガラン洞の室に裸電球が二三個ブラ下っている。その電球の光の下で、たくましく若々しい数十人の兄弟が床に板さを敷きその上に腰をおろしていた。あたりは暮色につつまれ、昼の間、目にしみる程に青々としていた緑の木々も、今は薄やみの中に、静かなささやきをかわしている。時折り自動車の走りさる音が夕暮のたたずまいの中に挿入してくる。―また一人の青年が立って云った。

「私は神様が生きていらっしやることを、心から信じています。私はバプテスマを受けてからまだ日が浅いのですが、教会の中で働くことを心から喜びとしています。私は今度勤労奉仕宣教師として働く為、会社を辞めて今その準備をしています。私にとってこの勤労宣教師は信仰を強め、進歩するよいチャンスだと思っております。きつと、奉仕の業の中にある、喜びの時と、なるに違いありません」。

五月十六日(土) 五月晴れの午後、京浜地区のアロン神権者たちが、今建設中の伝道本部建築現場に集った。集った人たちは、土曜日の午後の休みを返上して、協力して下さった勤労宣教師の六人の兄弟たち、副地方部長田中健治兄弟、地方部アロン神権委員の二人、若干の求道者を含めた六支部のアロン神権者、それに各支部のアロン神権主事など総勢五十九人程である。

アロン神権の回復を祝っての集いとして、京浜地区のアロン神権者の為に地方部アロン神権委員会が「建築活動への参加と証詞会」を、伝道本部建築現場で決定したのは、四月の末であった。

その時から地方部のアロン神権委員長田中健治兄弟と(伝道部のアロン神権者がその責任を兼任する)地方部アロン神権委員の三人は手わけして、各支部の部長会に会いこの会の趣旨を説明し、主事の方には、このプログラムを推進する為にそれぞれの支部が行ってもらう責任について話した。準備する期間は大変短かったが、各支部の支部長会、アロン神権の主事は、良く協力して下さって、当日には充分な準備がなされたのである。

中央支部のアロン神権主事K兄弟は五十人分の軽食を準備してくれた。彼のお母さんは若い神権者の為にジュース一缶を寄附してくださった。横浜支部のY兄弟はその日の司会を受け持ち、北支部の執事であるT兄弟は歌の指揮を受けもってくれた。

当日の現場監督はその名も誉れ高い―専任宣教師として二年間の奉仕の後、なお勤労奉仕宣教師として奉仕の業に励んでいる―菊地長老が引き受けて下さり、色とりどりの作業衣やシャツに、名札をつけた若き兄弟達が、彼の指揮のもとに、五つの班に分れて活動したのである。活動した時間は二時間程のものであったが、参加した

兄弟たちは熱心に働いてくれたので、予定の作業分を終える事ができた。作業は真剣なカケ声と同時に笑い声も聞えてくるなごやかな雰囲気の中で行なわれた。作業の後、屋上となる予定の場所に上って記念撮影をした。カメラマンは田中健治副地方部長にある。(元氣一杯のアロン神権者たちの張りきりようが、あなたにもはつきりと感じられるでしょうね)後に聞いたところによると、彼のカメラにはカラーフィルムが入っていたのであるが、残念ながら誰も知らなかったたので、皆はカラー写真用の顔(?)ではなく白黒写真用の顔で撮ったのである。

記念撮影が終り、皆はきれいに片づけられた一階のガラン洞の新居に入る。おそらく、この新しい伝道本部の建物でまだ全くの骨組だけだとはいえ、第一番目の集会を開いたのは私たちであると、集った人々の心の中には素朴な喜びさえも感じられたようである。いなり寿司が二個とパンが一個、好意のジュースが一杯の配給では食べきかりの若い兄弟の空腹をいやすことは無理であつたろうが、皆はこの少ない食物にも感謝をしてくれた。この軽食の後で、各支部から即席的にコーラスをして貰った。皆即興でも、中々素晴らしい歌いぶりを示してくれた。中でもみるからにたくましさがあふれているような、六人の勤労奉仕宣教師たち、彼らが歌つてくれた高きに榮えては証詞会への導入にふさわしい、靈感に満ちたものであつた。また、ソーヤ支部長が引率してきた(?)一六支部中最高の参加数を持った一東支部の兄弟たちの歌も再開されて間もない、新しい支部の息吹きが感じられて、聞く者をいたく感動させた。

証詞会は次々と立つ若き、真実の証人の証詞で、御霊に満ちあふれた素晴らしい証詞会となつた。私はかつて専任宣教師時代、九十数人もの英語で証詞を述べる一群の中において、彼等の話す言葉の意味

が良く解らなくても、強く神様の御霊を感じた時があつたが、このアロン神権者たちの述べる証詞会の中にもあの時を同じように、真の神様の御霊を深く感じたのである。

―二十五才の建築設計士の兄弟が立つて云つた。

「私はある建設会社に働いていますが、その関係で時々建築現場に行つて、コンクリートの打ち具合を見ますが、今日この建物に見られる程、立派に良くできてゐるのは見たことがありません。勤労奉仕宣教師の人たちは皆、素人だと聞きましたが、これは奉仕という精神がなした業だと思ひます。本当に神権につける業は、大変大きな力だと証詞を強められました」。

この会に出席した中で最年長の兄弟―十年程前アロン神権の祭司の職務にありながら、神様の持つ力に証詞がなくて教会を離れていたが今はその妻、子供の二人がバプテスマを受け、それは熱心に勤めてゐる―が立つて云つた。

「私が再び教会に来るようになったのは、神権の持つ真の意義とその価値を知らされてからです。新しい西支部の教会堂ができて私がまた教会に來始めた頃、地方部評議員のW兄弟から、この教会堂が建築に関しては全くの素人ではあるが、神権を持つ若き兄弟たちに作られたこと、この私に与えられていた神権がどんなにか価値ある、神様の贈物であることが聞いた時、私の心は開き、神権もいう輝かしい宝石を確に見ることができました。私は今、家族と共に教会に集い、家族中が皆、喜びに満ちた生活を営んでいます」。

幸福ではちきれそうな兄弟たちの顔、神様の御霊を感じて輝いてゐる目、私たちはモルモンとしてモルモンだけが味うことのできる幸わせな時間を過した。

別れの歌を歌いながら、私たちは、押し寄せる感謝の念に心も目も暖い潤いに満ちてくるのを感じた。

投稿

私のあかし

野々垣 祐 知 (甲府)

(此は去る五月三日に)

私は一九〇七年に(明治四十年六月に)バプテスマを受けましてより今日迄五十七年間信仰を続けて参りましたが此の永い間の宗教に勤でまいりましたのは常に神様より特別なるご寵招を蒙り朝な夕なに毎日感謝に次ぐ感謝で送りつつ、今日までモルモン家庭として何一つ不足はなく思う事は実現するし益々歡喜し感謝して自然に起るところの感謝で暮して居ます。ここに集って居られる大部分の皆様は、私の家のモルモンの家庭としていかに倅であるかを御存じでしょうが、若しご希望のお方は遠慮なくお越し下さい(百聞は一見にしかず)特に私の様な倅の暮しを皆さんにお勧めしたいのですから、何んでもお質問し

て下さい。然し神の摂理や奥義は程々にしてお互信仰を強め神の誠を守って朝な夕なに感謝して常に謙遜で柔和な心を清らかに神様に奉仕する意味で安息日は必ず教会に出席する様に心掛けましょう。



さすれば私の様な倅を必ず神様より与へられます。以上御子イエス・キリストの御名により申上げました。アーメン(原文のまま)

おかあさん

中田 喜美子 (仙台支部)

みなさん、お早ようございます。このすば

らしい母の日に話す機会が与えられましたことを心から感謝いたします。

みなさん、この世の中で一番美しい名前をごぞんじですか?……そう、それは、おかあさん。この世の中で一番やさしい人、そう、それはみんなの大好きなお母さん。私の悲しい時、楽しい時、ふっと心に浮かぶ顔、なんどもくりかえす名前。私の好きな、サトウハチローの詩集の中にこんな詩があります。

「母の手は

二人の子供の肩をなげるためにあった

一人が消え去り

肩をなげる回数へった

その代り母の手に

シワがふえて行つた

ふえて行つた」

「一番苦手なのは

おふくろの涙です

何にもいわずに

こっちを見ている

涙です

その涙に

灯りが
ゆれたりしている

そうして

灯りが
だんだんふくらんでくると………
………これが一番苦手です」

私はふっと母の横顔を見ました。がさがさしたひふと、あまりにもはっきりと刻まれているシワ……あの終戦後、父をなくし、九人もの子供をかかえ働いてきた母さん。

おかあさん。といって肩をたたいてあげた
いけど胸がいっぱいになってしまったので
す。お母さんのその横顔を見るとあの小さか
った頃の自分と、母の苦しかった生活……
でも、そんな時にも母はいつも明るさを灯し
ていました。私に、心のともしびをいつも見
て出してくれていました。私の大好きなおか
あさん。私は本当に心から、ありがとう。と
声を大にして叫びたい気持ちです。

この世の中に絶対的なすばらしい名前が有
ります。

おかあさん。おかあさん。

アメリカ便り

しごか義雄（ソルト・レーク）

四月二十四日日本より九県知事がソルト・
レーク市を訪問された。この訪問が計画され
るとすぐ私の所へユタ州知事ジョージ・クラ
イド氏（教会員）より日本知事歓迎委員の一
人になる様、依頼の手紙がとどき通訳官も兼
ねて両国親善の為に働く機会があり、日本の
有名人や政府の方々に教会を知っていたたく
為に少しなりとも教会の役に立てた事を喜ん
でいます。

特に皆様、御承知の様に当ソルト・レーク
市は長野県松本市と姉妹都市の関係が有り、
ホテル・ユタに於ける日本知事又婦人方々
歓迎宴会では長野県知事が全知事方を代表し
て挨拶の言葉を述べた。この宴会に教会を
代表してヒュー・B・ブラウン第一副管長が
出席、私は日本の知事又婦人方々に個人的に
ブラウン長老を紹介し教会の事を少しでも多
く知っていた事に対していつかこの事は教会
の為になると信じています。

又タバナクルに於けるアスパイ博士（タバ
ナクル合唱団標準オルガニスト）のパイプオル
ガン独奏会には皆様が大変感嘆しておりまし

た。特に金属性の物をつしつか使わずにこの
大堂が教会の開拓者達において造られた事に
深い印象を持たれた様です。

私も知事又婦人方々に教会の出版物を贈り
帰日後ぜひ教会に来られる様御話しする事が
出来教会にとって良い事であったと思いま
す。

又ユタ州政府又諸高官を代表しユタ州立大
学総長レイオロビン氏が流調な日本語で歓迎
の言葉を述べたのには知事又婦人方を驚嘆さ
せ且つ大変喜ばせました。

この度びの九日本県知事又諸関係者訪当市
の出来事は必ず日本に於て将来良い結果を生
み出すと私は信じています。

なお訪問知事は岩手、取島、岐阜、宮崎、
北海道、宮城、長野、熊本、栃木でした。

写真説明 ソルトレーク空港にて日本知事

諸氏とユタ州高官の交換

左二人目（白髪）ユタ大学総長レイオル

ピン氏

右三人目（岐阜知事）松野知事

一人置いて（長野県知事）西沢知事

一人置いて（私）しごか義雄

of Japanese ancestry met delegation at the airport at 8 a.m.

From the airport the Japanese governors and their party traveled by bus and car to the State Hotel where color slides of Utah were shown in the governor's board room. David Johnson, director of the State Historical and Publicity Council urged the presentation which included commentary in Japanese.

Enjoyed Hospitality

Gov. Clyde told the visiting Japanese that he never would forget the generous hospitality extended him and Mrs. Clyde during the visit to Japan last October.

The visitors filed through the governor's office, the Gold Room, House of Representatives, State and Supreme Court. They were taken to a special reception recital at the Tabernacle.

Watch Planting

The reception at the Hotel Utah Room was followed by attendance briefly at a token planting of a Japanese cherry tree and dedication of trees planted earlier along 21st West, the Sperry, Utah, electric plant.

The trees were donated by the Japanese-American Civic League. Raymond Uno, league president; Henry Y. Kasai, publications chairman, and representatives from Salt Lake of each prefecture represented by Japanese governors. Gov. Clyde had greeted the government at the airport and accompanied them on the tour.



Japanese governors visiting Utah Friday are greeted by Utah State officials and local Japanese dignitaries.

特にハワイ神殿訪問予定者に告ぐ

伝道部系図委員長 渡 部 正 雄

ソルトレーク系図協会、日本人記録係のマドセン委員から次のような手紙がアンダーセン伝道部長宛に来て居りますから来年ハワイ神殿訪問の予定者は本年末位迄に直系傍系を含めてなるべく多くの系図と家族の記録を提出されるようお願い致します。そうしないと切角多くの犠牲をしてはるばる神殿を訪問しても亡き愛する身内の者を救う、救主のお手伝いを出来ず自分の為にも先祖の為にも誠に惜しい機会を逃すことになり千載に悔を残すことになりまますからどうぞ努力して下さい。光陰矢の如しと言いますが半年の月日はあつと云う間に過ぎ去りますから、どうぞ今から始めて下さい。主は言つて居られます。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなかつたならば、後から夜のような暗やみの生涯がやってきて

そこへ入ったら何の働きもできるはずがない。

マドセン委員の手紙

新愛なるアンダーセン伝道部長

当系図協会の担当者たちは日本伝道部のハワイ神殿訪問計画に対して関心を持って居ります。日本人に記録作成提出方に就て提案し度いと思ひます。

この計画の為に委員が任命せられ、私たちは東洋に於ける系図の発展を期待しています。私は過去の経歴からこの委員に任命され又會つて日本で伝道したダウン・ポキン姉妹もこの委員会で働いています。それはポリネシヤ人部のエルヴィン・W・ジェンセン兄弟の管理下にあります。ジェンセン兄弟は新しく仕事を始める地区、特に大平洋地域に於て生ずるであろう諸問題に通じて居ります。

過去の経験から私たちは伝道部の聖徒たちは神殿に入
ってなされるすべてのことを理解していないかも知れな
いと承知しています。如何に記録を作成し、何処に提出
すべきかが最も大きな問題であります。神殿に訪問され
る人たちに次の説明をしていただけたら幸であります。

○ 神殿訪問者の知っておかねばならない事

一、すべての家族の記録、系図はソルト・レーク市系図
協会を通さねばなりません。

二、記録の諸手続をすませ、神殿の儀式の為にその名を
そろえる迄に最低四ヶ月を必要とします。

三、すべての名称、月日は漢字とローマ字の両方で日本
式に姓を先に書いて下さい。ローマ字の姓の下にアン
ダラインを引いて下さい。又出生場所等の場合大都会
に在っては、市、区、丁、又は町、県に在っては県、
郡、市又は町村を記入して下さい。

四、執行される結び固めは、

A 若し両親が死んでいる場合、生きている子供は両
親に結ばれます。若し両親が生きている場合は、両
親と子供たちが共に神殿に出席せねばなりません。

B 八才以下の死んだ子供は神殿に出席する生きた両
親に結ばれます。この死んだ人たちの為に代理者た
ちが立ちます。

C 生きている夫と妻は結ばれます。若し一方が死ん

でいる場合は代理者によって執行されます。

D 成人で神殿に入る者は亡き両親に結ばれるように
計画すべきであります。すべての死者の記録は前以
て当方に提出手続を終えるように注告致します。

私たちは貴方が神殿訪問計画者に直ちに記録の作成を
開始するように命ぜられるように提案します。若しも彼
らが今始めるならば、私たちは彼らの訪問を素晴らしい
ものにするように手伝うことが出来るでしょう。

何か質問がありましたら喜んでお答えします。お仕事
の上に主の祝福がありますように祈って居ります。

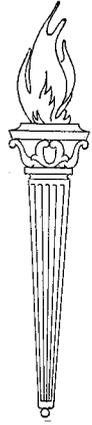
ポリネシヤ人部日本人記録委員

ヴァネタ・マドセン

註一、系図協会へ提出の分は英文用紙に伝道部控とし
て和文用紙に各英和二部宛本部系図委員会宛御送
付下さい。

二、四半期報告書を四、七、十、一各月十日迄に伝
道本部に到着するように提出して下さい。

三、各支部会員全部の提出状況チェックリストを作
成保存して、各支部記録提出現況を常に、判明出
来るようにしておいて下さい。



系図の道しるべ



2 戸籍編製の単位及び基準

前号で戸籍に関してわかつて載けたことと
思います。次に戸籍編製単位と新戸籍の編製
について学んでみましょう。

A 一戸籍編製の単位を「戸籍は、市町
村の区域内に本籍を定める一の夫婦及びこれ
を氏を同じくする子」ごとに編製する。但し配
偶者が不在者についてあらたに戸籍を編製す
るときは、その者及びこれと氏を同じくする
子ごとにこれを編製する」と戸籍法第六条に
規定している。なお旧法の戸籍が「市町村の
区域内に本籍を定める者に付き戸主を本とし
て一戸毎に之を編製す」と「家」を単位とし
て編製されていたのに対し、新法の戸籍編製
の要点(単位)は次のようになる。

- ① 一の夫婦及びこれと氏を同じくする子
 - ② 配偶者なき者は、その者及びこれと氏を同じくする子
 - ③ 配偶者も子もなき者で父・母の戸籍に入らぬ者については、その者
- 従って、夫婦が戸籍を異にすることや、一戸籍に二組の夫婦が記載されることはない。
- 二、又戸籍法第六条は戸籍編製の単位を決定する基準として「婚姻」及び「親子関係」の外に「本籍」と「氏」をかかっている。

戸籍に記載することのできる者は、市町村の区域内に本籍を有する者でなくてはならず、又同一の戸籍にある者はまず本籍を共通にせねばならない。

※参考2、「本籍」戸籍法第九条

個人が記載されている戸籍を特定するため戸籍編製の基準たる一定の場所をいう。

本籍は日本国内のみに定めることができるばかりでなく、本籍を有することができる者は、日本国民(天皇及び皇族を除く)だけに限られる。従って戸籍法の効力が及ばない外国人は本籍を有することができない。

三、戸籍は原則として一の夫婦とその子を編製されるが、その子は父母と氏を同じくする者でなければならない。

※参考3、氏(家の呼称でなく個人の個称である)は、戸籍編製の単位の基準である。換言すればある個人をいづれの戸籍に記載すべきかを決定する基準であつて、本籍とともに本来戸籍法上の制度である。但し氏の変動に關しては、戸籍法中に規定なく、民法(七五〇条、七六七条、七九〇条、七九一条、八一〇条等)に規定し、戸籍法はこの民法の規定を受けて氏の変動に基く新戸籍の編製、入籍除籍等の手続を設けているに過ぎない。

そして本籍同様民法及び戸籍法の氏に関する規定は、外国人についてはすべて適用がない。すなわち日本人である当事者が男女問わず外国人との婚姻をした場合にも氏の変動を生むることがなく単にその者が戸籍中、身分事項欄に婚姻に関する記載がされるだけで新戸籍は編製されない。

B それでは次に、新戸籍の編製を要する時は具体的にどのような場合かを学びましょう。

- (1) 婚姻の届出があった時は、その夫婦について新戸籍を編製する（戸籍法第十六条）
- (2) 戸籍の筆頭者及びその配偶者以外の者が婚姻によらないで同一の氏を称する子又は養子を有するに至った時その親子について新戸籍を編製する（戸籍法第十七条）

注 第十七条は三代同籍の戸籍を防止する為に設けられた規定

- (3) 婚姻又は養子縁組によって氏を改めた者が復氏（従前の氏に復する者が従前の戸籍に入ること）する時は、元に入るが、その戸籍が除かれている時、又はその者が新戸籍の編製を申出た時は、新戸籍を編製する（戸籍法第十九条第一項）

- (4) 入籍又は復籍する者に配偶者がある場合

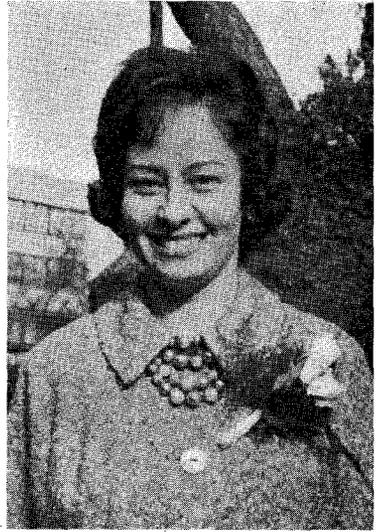
はその夫婦について新戸籍を編製する（戸籍法第二十條）

- (5) 分籍の届出による場合。戸籍の筆頭者とその配偶者以外の者は成人に達すれば、分籍の届出をして新戸籍を編製することができる（戸籍法第二十一条）

- (6) 入るべき戸籍のない者について新たに戸籍を記載すべき場合（戸籍法第二十二条）

棄兒、日本に帰化した者（但し、その者の父又は母が日本人であつて帰化届に際し父又は母の氏を称する場合は除く）就籍する者（但し父母が明らかかな為、父又は母のいずれかの戸籍に就籍すべき者は除く）等は称すべき父又は母の氏及び入るべき父又は母の戸籍がない為此の二十二條の条項に従い、その者につき新戸籍を編製す。（齊藤稔男）





ミツシヨンマザー
伝道部扶助協会会長メッセージ

ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

わたくしが一度読んだことのある或る物語が、わたくしに大きな心のかてを与えておりますので、その物語の伝えることばをあなたがたにお届けしたいと思います。

★「……その男は実さいに年をとってはいなかったが、年よりもふけて見えた。彼の髪は白くなりかけて居り腰はまがっていた。そして彼の両手は労働のためにめっきり弱っていた。彼は食卓の上にひじをつきあごを片手に支えてすこし前こごみの姿勢で向こう側にある壁を見すえていた。彼は世の中の人々がだれでも直面することのできる大問題に直面していた。彼はアルコール中毒患者であった。

しかし酒をのむことは彼が直接ぶつかっている問題ではなかった。彼はかつてその問題に直面したことがあったが、今はアルコールなしの生活をしたと思うほど強い気持になっていた。今日彼の

妻は、彼に会うためこの「リハビリテーション・センター」(不具者や病人などを社会の一員として働けるように回復させる施設)へ来る途中なのだ。彼はこれからむかえる新生活に彼女が欲しかった。彼の妻は、彼が最も暗黒の状態に居たとき苦しみを共にしてくれたのに、彼は妻をのこして家を出て行ったのだ。今となっては彼女を必要としているが、どうしてそれがたのめるだろうか。どうして彼は、自分の妻に与えた断腸の思いと侮辱とをすべてつぐなうことができるだろうか。

★その問題はあまりに大きすぎた。彼が過去の行ないを悔やめば悔やむほど、彼は妻のゆるしをねがう権利がなかった。それにもかかわらず、彼は今こそ彼女が最も必要であった。彼の頭は支えている手からがっくりと食卓の上へ落ちた。

★間もなく彼の妻はやってきた。そして二人はいらいらして語り合

ったが、とつぜんあっさり(とすらすら)とでなくあっさり(と)彼女
は絶望のやを消してしまった。それは彼女が「昔のことをよく
よするのはやめましょう。新規まき直して始めましょう」と言っ
たからである。それで、それまで不可能であったことが、いや彼にと
って不可能と思えたことが、今や可能になったのである!

★以上は、わたくしが今月あなたがたにお伝えしようとする大切な
ところであります。あなたがたにとって過去に起ったことはもはや
重要ではなくて、大切なのは今日と、これから築きたいと思ってい
る将来であります。あの男の妻が言ったように「新規まき直して始
めましょう」。あなたがたは、このイエス・キリストのまことの
教会へ入るためにバプテスマを受けたというかがやかしい事実があ
るので、一日一日ごとに、善いことを行なうために生き方を變える
機会にめぐまれています。わたくしはこのまことの教会の会員であ
りますので、生き方を變えて新しく出発するこの特権にめぐまれて
います。わたくしはこの特権にめぐまれていることをこれまで度々
「天の父なる神さま」に感謝して居ります。わたくしは人間として
の弱点をいくつも持っていますので、もっと完全に誠命を守るよう
新しく出発する必要がありますからです。もっとよく説明をするために
別の話をさせていただきます。

★扶助協会中央管理委員会第二顧問のルイズ・W・マディソン姉妹
は、次のような出来事を話してください。

「英国にあるステーキ部の大会(三箇月毎に開かれる)に出席す
る任命を受けていた間に、私たちは成る扶助協会の会員を北海のほ
とりにあるその家にたずねました。(そのとき)私たちは湾のほとり
にある一つの燈台に心をひかれました。そこで私たちはそとへ出て

岩だらけの岬へ行き、あの大きな燈火を見ると同時にその高いこ
ろからまわりの景色を見わたすために、百五十段の階段を頂上まで
のぼってゆきました。

★その燈台守の話によると、この燈台はまだ電化されていなく
て、大時計の仕かけによるおもりの作用ではたらいっている全国でも
数の少い燈台の一つでありました。(ところで)私たちはその燈台の
建物がきわめて清潔であることに目を見はりました。あの大きな機
械から落ちる一滴の油も目につきませんでした。またあの大きなブ
リズム(ガラスの角柱)の表面には一つのちりもついていませんで
した。すべての装置は即座に運転ができるように、ちゃんと準備が
してありました。

それから夜になって、その燈台の大きな光が暗をつらぬいている
のを見たとき、燈台と光と扶助協会(または教会)の象徴している
意味をつくづく考えました。

★私は、清く正しいままの扶助協会(または教会)は、かがやく光
を放つ燈台のようにそそり立ち、すべての燈台のように、岸をかむ
大波にも微動しないようにしっかりと腰をすえている「神の啓示で
組織された団体」であると考えました。

★私は、そのかがやく光は福音の光であり、暗黒をてらす教育の光
明であると考えました。

★私は地上から空をさして光の道をつくっている、そのくまなく照
らす強い光線は、永遠の生活に至るまっすぐな道であると考
えました。

★私はそれが、真理が心を照らしたときにあらわれるうれしい心持
ちのように、北海の荒波をこえて航海をしている船にとってうれし

いながめであると考えました。

★私はそれが「さあ、ここに安全がある」と言って合図をしている光線であり、船員はその光と燈台とを認めて、自分が今正しい航路にのっていることを知る光であると考えました。

★私はひじょうに多くの人々の心をてらす光を守る人である扶助協会（または支部、地方部）の役員たちを、重い責任を負ってその義務をつくす燈台守にくらべてみました。そして私は「光に気をつけよ」という燈台守の信条を思い出しました。……何ごとが身にふりかかるうとも、光に気をつけなさい」（おわり）。

★さてわたくしは、あなたがたにはげましのことをばをさしあげるために、この二つの話をわたくしの話に織りこみたいと思います。あなたが過去にしていたことはもはや重要ではありません。過去を忘れてまた新しく始めましょう。燈台は道を指しています。そしてその道というのはイエス・キリストの福音であります。もしあなたが過去に、規則正しく教会の集まりに出席していなかったなら、それを忘れて、新しく集会に規則正しく出席し始めなさい。もしあなたが前に、教会の組織の一つの中で指導者として教師としてまたは何かの役員としてあなたの地位を高めるよう努力していなかったならそれを忘れて、新しく始めなさい。あなたの地位を高めるように努力し、燈台からくる光をしっかりとらえなさい。あなたが過去に、訪問教師としてまたは「ホームティーチング」の教師として立派な仕事をしなかつたことは重要ではありません。それを忘れて、あなたはこれらの資格で、またはどの役目で働らくようとたのまれようと、新しく働き始めなさい。また、神の誠命のすべてについて同じようにすることができるよう。将来に目をつけて新しく始めな

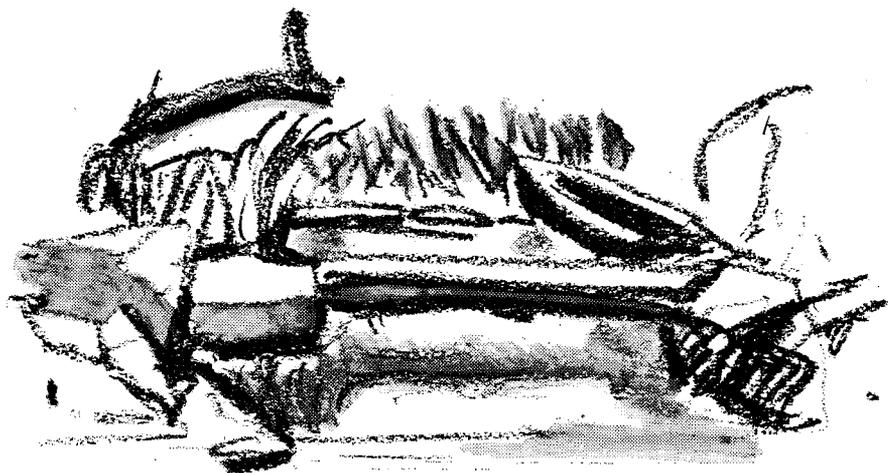
さい。今、全伝道部を通じて大きな驚くべきことが起っています。今、各々の義務を忠実に履行しない、教会堂をたて、新しい組織をつくる準備をし、扶助協会のプログラムや神権のプログラムを履行し、神殿へ行く準備をし、教師として忠実にはたらいっているひじょうに多くの幸福な会員たちのかがやく目と顔とを見てわたくしはひじょうに感激をおぼえます。燈台は道を示しています。その光に従って行く人々は幸福であります。いままでその光に従っていなかった人々は新しく始めることができます。

★デビッド・O・マッケイ大管長は次のようにおっしゃっています。「私たちが物質的の成功や快楽を得たいと毎日思うときに、私は自分の心と家庭の中に『万物のつくり主』がおいでになることが大切であることを忘れがちである。また私たちは社交の中で『万物のつくり主』を私たちの生活の中心にすることが大切であることを無視しがちである。

★私たちの宗教は、日曜日だけ体にととってあとの六日はたんずの中にしらまつておく外とうでもなければ、国民がある時にだけ人に見せびらかして、また次のときまで防虫剤でくんでおくものでもない。

★人間は今日急速に二つの階級にわかれつつある。すなわちその一は信者であつて、その二は不信者である……」。

★それでわたくしはあなたがたに申します……わたくしたちは信者であります。と。わたくしたちはあなたを毎日毎日ことごとく行いで示そうではありませんか。わたくしたちは一人一人は、過去においてしたことを忘れて、主につかえ、自分の弱点にうちかち、自分の召しをさらに高めることを新しく始めようではありませんか。私はここに、燈台はイエス・キリストの福音であつて、それは過去を忘れて将来に目をつける道を指し示していることをあかしたいします。



母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯 (二十)

第三十七章 最後の西部伝道―ジョセフ・スミス(初代)

カートランドへ移る

前の章で述べましたように、ジョセフとエマはマンチェスターを去ってマセドンへ行きました。ジョセフはここで福音を伝える働らぎを始めてしばらくのあいだつづきましたが、それからひきつづきマセドン、コーレスヴィル、ウオータールー、バルマイラ、マンチェスターなどで福音を宣べ伝えて居りましたが、とうとう人をペンシルベニアへ遣わして荷物をとりよせウオータールーにおちつきました。それからまもなく神の啓示があつてパーレー・P・ブラット、ザイバ・ピーターソン、ピーター・ホイットマー、オリヴァ・カウドリたちは、行く行く教えを説きながらミズーリ州に伝道をせよという命を受けました(教義と聖約第三十二章を参照)。この啓示を受けるや啓や、エマ・スミスほか数名の姉妹たちはこの伝道のために特に任命をされた人たちに必要な衣服をこしらえる仕度にとりかかりました。その衣服の大部分は原料からつくり出さなければならなかったので容易なことではありませんでした。エマは当時かなり病弱でありましたが、それにもかかわらずエマはそのために自分の身をいたわるといふことをせずに、手あたり次第に力を尽して働らきましたので、とうとう働らきすぎて重い病気の発作を招き、それが四週間つづきました。しかし肉体は疲労の極に在っても、なお精神はすこしも衰えていませんでした。実察、エマはどんなにつらい状態に在っても、いつもけっして精神に衰えを見せたことはありませんでした。私はこの人のように何事にもひるまない勇氣と熱心と忍耐とを以て毎年毎年あらゆる種類の疲れと困難にたえて行く人を見たことがありません。エマはそれをや

りぬいてきています。私はエマが耐えなければならなかったことをみな知っているからです。エマは波風さわぐ大海の上になげ出されました。エマは迫害の嵐に吹かれ人間と悪魔らの怒りにうち叩かれてしまうほどのひどいものでした。それでも多くの人はまだ同じ目にあわなくてはならぬかも知れません。どうぞ、そのようなことのあるませぬように。万が一、そのような事がありましたなら、その人たちの一日一日に応じて、エマの時にそうであった通りおめぐみがありますように。

さきの啓示で指名された兄弟たちは、出発の用意ができるや否や伝道の旅に出かけ、機会のあることに行く行く福音を宣べ伝えてバプテスマを施こしました。この人たちは旅の途中カートランドを通りすぎましたが、そこでしばらく福音を宣べ伝えた末、二・三十名の会員をもつ支部を一つ組織しました。一行はカートランドを去る前にジョセフに一通の手紙を書き、カートランドに組織した支部を管理する長老を一人おくってほしいと言いました。それに応じてジョセフはジョン・ホイットマーを派遣してカートランド支部の支部長にしました。そしてジョン・ホイットマーが着任すると、ミズーリへ行く任命を受けた一行は彼らの使命を果すために出かけ、以前のように福音を宣べ伝えバプテスマをほどこしました。

この年（千八百三十年）の十二月、ジョセフは私たちの家で集りをすることにしました。そしてジョセフが説教をしている間にシドニー・リグドンとエドワード・パートリッジが部屋に入ってきて会衆の間に席をとりました。ジョセフは説教を終ると考えを述べたい人たちにみな話す機会を与えました。これと同時にパートリッジ氏

が立ち上り「私はあなた方が宣べ伝えた教えについてもっと知りたいたいという考えでマンチエスターへ行ったがあなた方が居なかったの、あなた方の性格について隣りの家の人たちにたずねた。隣りの家の人々は、ジョセフがモルモン経についてわれわれをだますまでは何ら非難すべき点はなかったと言った。そこであなた方の農場の上を歩いてみると、それはきちんと耕やされて居り耕作者の勤勉なことをあらわしているのを見た。そしてあなた方がその信仰のためにぎせいにしたのを見、あなた方の信じている宗教以外に何ら真実なことについて疑がうべき点のないことを聞いた。私はあなた方の証しを信ずる。もしジョセフ兄弟がバプテスマを授けてくれるならいつでも受ける用意ができています」と言いました。これを聞いてジョセフが、

「パートリッジ兄弟、あなたは今大そう疲れておられるから、今日のところは休んで明日バプテスマを受けられよ」と言いますと、パートリッジ氏は、

「ジョセフ兄弟が一番よいと思う通りに（いつでもよろしい）。私はいつなりとバプテスマを受ける用意ができています」と答えました。

これによってパートリッジ氏は翌日バプテスマを受けました。

註。エドワード・パートリッジは千八百三十年十二月十一日にバプテスマを受けた。

パートリッジ氏が出立する前に、私の夫は監獄の庭でおけを作る仕事をして得たかなりたくさん服をもつて家へ戻ってきました。

十二月の下旬、ジョセフがジョン・ホイットマーから手紙を受けとって読みますと、カートランド支部で問題が起きていたので、それを調整するために助けてもらいたいと書いてありました。ジョセ

フは主におたずねして、家族と財産とを携えただちにカートランドへ行け、またジョセフが今管理している教会の支部をハイラムに引き受けさせ直ちにそこ（コーレスヴィル）へ行くようことづてをせよという命令を受けました。そして私の夫もまた同じ啓示の中で最も都合のよい所でハイラムに会い、彼をつれてカートランドへ行けという命令を受けました。サムエルは同じ地方へ伝道につかわされ、一方私と二人の息子（ウイリヤムとカルロス）とは次の春の来るまで待つて、ウオーターラーの支部にのこっている人々をつれカートランドへ同じく移つてゆくはずでありました。

ジョセフとエマが、シドニー・リグドン、エドワード・パトリック、エズラ・テール、ニューエル・ナイト等の人々と一しょにカートランドへむかったのはそれから間もないことでした。

註。ジョセフとエマは、オハイオへ旅をするため千八百三十一年一月の下旬にウオーターラーを立つた。

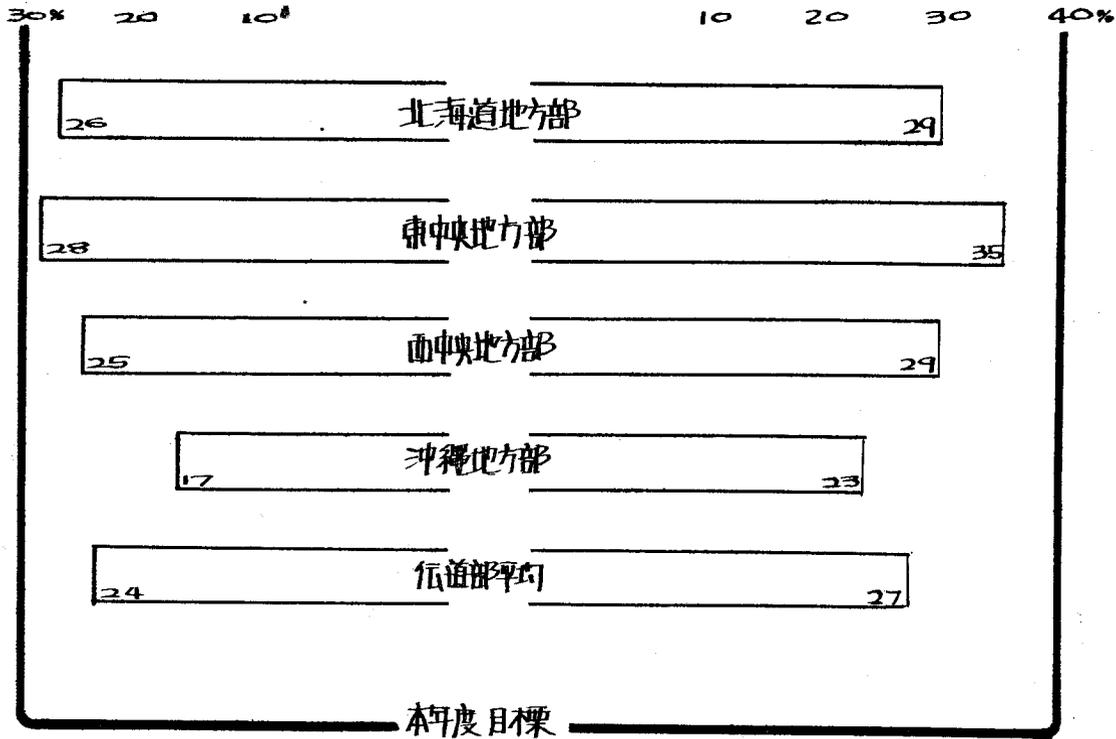
この一行は今や旅立とうとするとき、一行はセネカ河のほとりにある私たちの家で福音の説教をしました。そして旅の途中カルヴィン・スタッターの家で説教をし、同様にプレザーヴド・ハリス（マーテン・ハリスの兄弟）の家でも説教をしました。これらの場所の一つ一つで一行は数人の者にバプテスマを施し教会に加入させました。

ジョセフはカートランドへ着いて見ると百人近くの会員が支部をつくっているのを知りました。この会員たちは一般に善良な兄弟でしたが、その中の数人は或るひじょうに誤まった考えを受け入れてある奇妙な力に大そうまどわされ、顔を奇妙にゆがめたり、突然不自然に力を出したりする状態が彼らの間にあらわれていました。そ

して彼らはこれが神の力のあらわれであると思つていました。ジョセフはカートランドに着くとすぐに、神のみたまと悪魔の靈氣とのちがいを示すために教会員を呼び集めました。そしてジョセフは、もしもある人が集会で話をするために立ち上り、ある種の発作にとりつかれてその顔や手足を烈しく不自然な様子でひきつらせ、苦しんでいるように見せるならば、またもしもある人が聴衆に理解のできない不思議な言葉を出すならば、たしかにその人は悪魔の靈氣をもっている。しかしこれに反して、ある人が神のみたまによって語るならば、その人はあふれるばかりの温情で語るの、その人の心は英知に満ち充ちて、たとえ興奮をしても、すこしもおかしなまは不似合な様子を見せない、と言いました。それからジョセフは兄弟のうちの一人を名ざして話をさせましたところ、この兄弟は立ち上つて話をしようとしたが、すぐにある種のけいれんを起し、ひじょうに驚ろくべき様子でその顔と両手と指とをひきつらせました。

このときジョセフの依頼によつてハイラムが両手をこの男の上に置きますと、この男は全く疲れはてた状態で椅子にどっかり倒れこみました。次にジョセフが、開け放した窓に外からよりかかつて立っていた別の男を名ざして話をさせましたところ、この男も話をしようとしたが家の中へ（投げられるように）倒れこみ、全く疲れはてて一言も口に出すことができませんでした。そこで前の男のように按手をしますと、前の例と同じことが起りました。

これらの事実は、同じような二三の例と相まって、その支部の会員たちがそれまでなやんでいたことはあやまりであったことを確信させました。それで兄弟たちは啓示と聖靈の賜によつて人の子らを今一度かたじけなくも導きたもう神の慈悲を一同ことごとく喜んだのであります。



聖餐会 /
 神権会 4月

「あなたのMIA」

のお知らせ

全国、各支部の兄弟、姉妹、お友達の皆さん、こんにちは。

若葉に映える新緑の候となり、皆様も元一杯に教会のお仕事に社会のために日々をお励みのことと存じます。私共、MIAの役員も元気に日々を送らして頂けることを神に感謝致しております。

さて、あなたのMIAの表題の下に此夏もMIAの全国大会を東京地区で開催出来まことを感謝致すと共に、兄弟、姉妹、お友達への御支援を強く希望し、素晴らしい大会に致し度いと思っております。左記のプログラム内容に従って進めていきたいと考えております。

あなたのMIA プログラム

8月6日(木)午後6時半～9時 東京西支部

開会式及び歓迎会

面白いゲームを通し、会員みなさまの親睦をはかります。

8月7日(金)午後4時～8時 体育館卓球

トーナメント(各地方部から選抜された精鋭選手、チームによる対抗試合)

種目

混 合 一地方部当り一チーム

ダブルス 一地方部当り男、女各一チーム

シングル 一地方部当り男、女各一チーム

各地方部からの選出チーム、選手が覇を競い合うこととなります。出場資格はMIAの会員であること。優勝者には賞状、賞品が授与される。

ルール 3セット・11点制(国際ルールに準ずる)

フォークダンスコンテスト
種目

課題曲 ブルーパシフィックワルツ(コンビアBK76レコード) 一地方部当り一チーム

自由曲 フォークダンス 各6分間

各地方部当り一種目一チームですが、編成は支部単位です。若し一支部で編成不可能の時は他支部との混成でも結構です。支部対抗による選抜精鋭チームを出して下さい。優勝チームには賞状、賞品が授与されます。編成 一チーム、4カップル以上にして下さい。

8月8日(土)午前8時～11時半 東京西支部
スピーチコンテスト

提出課題「神の律法と学問」または、

「あなたはどのようにして神の律法を理解し、受け容れ、実践したか」 20分間

自由課題 人々の上に強く訴える霊的な話 10分間

一地方部当り各テーマに就て一名の弁士を出して下さい。

役員との懇親会 午後1時～3時 東京西支部

演劇 午後6時半～9時 豊島公会堂(国電池袋東口)

モルモンの泉 北海道地方部

奇蹟 東中央地方部

宿泊場所(無料)
東京西支部 姉妹
東京中央支部 兄弟

The Story — A Dog to Pull Their Handcart

On June 6, 1860, *Henry Tempest* and his two sons left *Florence, Nebraska*, with a company of over two hundred people to go to Utah. Only six of these people were fortunate enough to have wagons with *oxen* to pull them. Henry and the boys were thankful to have one of the 43 *hand carts* in the company. All the food, dishes, clothing and bedding for all three of them was in their *two-wheeled* hand cart. They knew they would have to walk and pull the cart over *trails*, up hills and down, hundreds of miles to Utah.

They had not gone very far when Henry became ill. He was so sick that *Captain Robinson* thought it would be best if Henry and his sons went back to Nebraska. How *disappointed* Henry was! He *begged* the captain to let him stay with the company one more day to see if he would not get better. More than anything else in the world, he wanted to be able to *pull his cart* and go on with the others.

That night Henry prayed and asked the Lord to help him get to Utah. The next morning he was much better. He traveled along trying to help *James* and *John* with the cart.

When it was time to *camp* that evening, the *Pioneers*, took their things out of their carts. Each person had work to do. They *started fires* and cooked something to eat. They made their beds on the ground so they could rest and be ready to go on again. The boys worked; Henry rested.

A large *greyhound dog* came into camp. It ran from one group to another until it came to the little camp Henry and his boys had made. After it *sniffed* around, it lay down and seemed to be at home. The boys were *delighted*. They talked to it and petted it. No pets were allowed in the company. Food was too *scarce* to give to animals that did not *earn* it by working.

Henry had an idea, and it proved to be a wonderful idea! He began to look around to find *ropes* and *straps*. Before long he had made a *harness*. The dog did not mind when Henry put the harness on him and *hitched* him to the handcart. He acted as if he had pulled carts before.

The next day the dog helped pull the cart. Now the large greyhound *was considered a helper*, not a pet, so he *was allowed to stay*. Henry Tempest and his boys, *divided their food* from the cart with the dog. How they loved the big greyhound!

Day after day, whether the sun was hot or whether the wind blew, the dog helped. In fact, he pulled the handcart most of the way, hundreds of miles across the *plains*. Henry was blessed with strength to walk along with his boys.

After nearly *three months* of walking and pulling the cart, they arrived in Salt Lake City. How happy they were to get to the place where they could *start to build a home!*

A few days after they arrived, the big greyhound *disappeared* and was never seen again.

— Told to Lorna C. Alder by Mrs. Henry Bodell of Herriman, Utah, granddaughter of Henry Tempest. *As recorded in Henry Tempest's journal.*

1st Week:

1. Introductions. Student introduces neighboring person (left) using conversation such as:

My neighbor's name is _____.

He (she) lives in _____.

His (her) hobby is _____.

He (she) is a _____. (student, working person, etc.)

(Let students use about 2 minutes to get acquainted before introducing.)

2. Read whole story in English and Japanese.

Talk about difficult or catchy words or phrases and discuss definitions in English and Japanese. Have someone try using the word in a sentence.

Have class repeat after teacher line by line of the first section of story.

3. Show and explain route of pioneers on U. S. map. Illustrate by pictures or drawings handcarts, covered wagons and companies.

Discuss reasons the pioneers had for going to Utah. (Use *What of the Mormons?* in English and Japanese; church magazines, etc.)

4. Listening:

Without use of books choosing any words from the story have teacher

spell the word and student and or students pronounce; then teacher pronounces word and students spell; have a students pronounce, teacher spell; student spell, teacher pronounce.

Consonant sounds:

1. p — voiceless. pen, piece, play, speak, lamp, sharp, picture.
2. b — voiced. be, boy, blue, black, Betty, bedroom, blackboard.

Listen and repeat after teacher. Close books, students number paper from 1 — 10. Teacher pronounces ten p and b words and students write # ① if “p” word, # ② if “b” word to check how well they hear the difference in these sounds.

2nd Week:

1. Read second section of story in English and Japanese.
Talk about word and phrase meanings both in English and Japanese.
Have whole class repeat after teacher line by line of this section.
Divide class in several groups and have each group recite the section of the story.
2. Cardinal numbers.
 - A. Say cardinal numbers from 1—10, then 10—1.
 - B. Practice reading these numbers rapidly:
3, 7, 1, 5, 9, 2, 4, 10, 6, 8, 5, 3, 9, 1, 7, 98, 31, 42, 80, 91, 18, 14, 19, 13, 15.
3. Consonant sounds: (repeat same type exercise as last week).
 1. th θ voiceless: thank, three, third, bath, month, sixth.
 2. th ð voiced: the, they, this, that, there, mother, brother, father.
4. Conversation:
One student asks a question, next student answers.
Second student asks next person etc.
Questions such as:
 1. What day is it?
 2. How do you spell your name?
 3. Where are the keys?
 4. What kind of weather is it?Answer should be a complete sentence.
5. For added variety the hymn “Come, Come Ye Saints” could be discussed (Instructor July 1961, *What of the Mormons?* Ch. 13) and sung in English and Japanese.

3rd Week:

1. Discuss and practice reading third section of story as previously outlined.

Have each student practice reading the section to the neighboring student—paired off in twos they should each be able to have a chance to read it in about 5 minutes or so. Tell them to help each other with pronouncing words etc.

Have one or two read aloud for the class.

With books closed dictate several sentences from story. When finished pass to next person and have serial read.

2. Tell of experiences of pets being useful etc... especially any Japanese Tales (check *We Japanese*)
3. Have slips of paper passed out at beginning of class. Have such things as: describe the dog in the story, what kind of people does the story tell about, etc. Have students stand and talk about the subject.
4. Time: Draw clock on board.

What time is it?

9:00



It's nine o'clock.

9:00



It's nine-five.

It's five minutes after nine.

Have someone draw certain time; teacher draws clock and student answers. One student asks next in line "What time is it?", he answers as rapidly as possible and asks the next person. (without using on the hour time).

1. 2:30

5. 8:17

9. 6:15

2. 1:01

6. 3:24

10. 2:57

3. 10:55

7. 9:40

11. 8:32

4. 4:45

8. 12:30

12. 7:10

4th Week:

1. Read and discuss remaining part of story.

Students should be prepared to read story fluently with expression. For more advanced pupils have them tell (not read) story in English.

2. Discuss about pioneers; have someone read and study before hand from *What of the Mormons* Ch. 13 and be prepared to tell some part of it in English. Have someone tell in Japanese and someone in English—translating for each other.

3. Discuss:

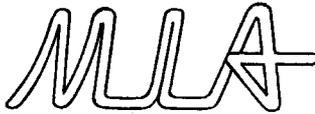
- A. Where did this story come from?
- B. Why do you believe the story is true?
- C. What is a journal?

4. Following directions:

Students listen and do as teacher gives directions, e.g.:

- 1. All boys stand up.
 - 2. Girls who attend High school raise right hand.
 - 3. Look to the left.
5. 1. s = voiceless: yes, what's, it's, talks, walks, asks, lesson, listen.
2. z = voiced: these, those, Keys, reads, Tuesday in 1st week.)
6. To practice listening and to introduce M. I. A. read fairly fast the following story and when the students hear left, have them look left; right, look right; up and down etc:

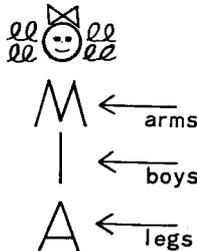
One day I opened *up* my window and looked *up* into the sky. I looked to the left and to the *right*. I looked *down* and saw a long worm:



What was the message the worm told?

Attention Missionaries:

Use your imagination to introduce M. I. A. Use ideas from street meeting stories, etc. to give new twist to M. I. A. introduction. Use pictures to tell a story describing M. I. A. activities. For example: tell about a girl who was sad because she wasn't complete (draw just a head) but she found a place to get arms (draw), a body (draw) and legs and then she became happy. where did she find a complete life? At M. I. A. of course...

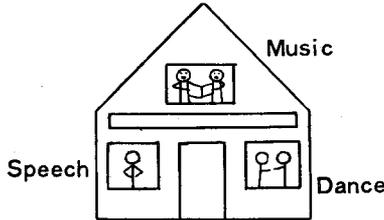


Or—there was a boy who went walking one evening and he heard people singing, he heard dance music, and heard people reciting—as he came closer he decided it must be Thursday night, about 7:00 and what was it?

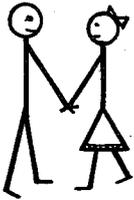
(Draw as you tell the story.)

Where was it?

(Write Mormon Church over the door)



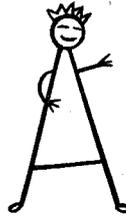
MIA of course!



Like to dance?



Sing?



Give speeches or be in plays?

Then come to M. I. A., (trace the letters) of picture.

Try writing Mutual Improvement Association with opposite hand than you usually write with—write it backwards and in one long word and ask if they understand. Tell them to attend M. I. A. and they'll understand.

MXUXTXUXAXLXIXMXPXRROXVXEXMXEXNXTXAXSXSXOXCXI-XAXTXIXOXN. (cross out x's and what do you have?)

図
書
案
内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1100円
教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	合本	300円
モルモン経	(新訳)	300円
信仰箇条の研究		330円
モルモンとは?	(新版)	150円
総合聖句の手引		150円
日本系図探究要覧		100円
アロン神権者用学科課程		150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		200円
ナザレのイエス		100円
正しい日本史		100円
家督権の祝福		100円
料理の作り方		50円
求道者教育法		120円
神の王国		230円
イエス・キリスト		300円

日曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	200円
我らは信じる	200円
我らは奉仕する	150円
生活の目標	150円
MIA・エンサイン・ローレルの手引	150円
演説が上手になる法	150円
素晴しき考え	200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌(新版)	400円
レクリエーション歌集	400円

……………注文は各支部長へ……………

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川市八条五丁目 MIA集会場 旭川公会堂 電話(二一五五四)
室蘭	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二一八二四)
札幌	札幌市北二条西二四丁目 電話(六三二七八六六)
東中央地方部	高崎市並榎町二七五
群馬	甲府市山田町六三
甲府	松本市同心町六一二
新潟	新潟市中大畑町五七七 電話(二一八六六〇)
仙台	仙台市光禅寺通り二八 電話(二五〇八九七)
東京中央	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八一三三〇七)
東京北	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四
東京東	東京都江戸川区小岩町六一七八〇 電話(六五七一五二三)
東京南	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九一六三一)
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)

山 形 形

山形市七日町一一八
横浜市港北区篠原町二九
電話(四九一八七七二)

西中央地方部

大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話(六二一一八三二七)

福 岡

福岡市浄水町四六
福岡市古田町古江四〇〇ノ三
電話(三一六一三五)

金 沢

金沢市上胡桃町一一

京 都

京都市左京区下鴨東半木町 河合方
名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話(七三二四二一〇)

西 宮

兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話(五一〇一四一)

岡 山

大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話(二一一二六六)

三 宮

岡山市北方七〇

柳 井

神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話(八六一二六〇二)

沖繩地方部

山口県柳井市今市三九一

普 天 間

沖繩宮野湾市野嵩区三二二八
沖繩那覇市松尾区一三九

那 覇

東京都港区青山北町六ノ三四
電話(四〇二一四〇一〇)

建築部事務所

聖 徒 の 道

1964年7月1日発行

振替口座 東京 16226 番

兼 人 兼 人
發行人 兼 人
編 集 人
發 行 所

ダワエン・N・アンダーセン

未日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町 14

印刷所 合名会社 三五堂

英会話テキスト用

1960年6月6日、ヘンリー・テムベスト及び彼の2人の息子たちは、200人余りの団体と共にユタ州に向かって、ネブラスカ州のフロレンスを出発した。この一団の内であつた6人だけが幸運にも牛がひく幌車を入手することが出来たのである。ヘンリーと2人の息子さんは、その一団の43台の手車の1台を入手出来たことに感謝した。すべて3人の為の食物、食器、衣類及び寝具は、全部両輪の牛車の中におさめられてあつた。彼らはユタまで数百哩の道を丘を上ったり降ったり手車をひいて歩かねばならないことを知っていた。

彼らが出発して、まだあまり遠く行かない内にヘンリーが病氣になった。ロビンソン隊長は、彼の病氣があまりひどいのでヘンリーとその息子たちはネブラスカに戻つた方が最も好いと考えた。ヘンリーは如何に失望したことであらうか。彼は若しかして病氣がよくなるいだらうかを見る為に、もう1日、その一団の内に留らしてくれるように頼んだ。この世の如何なる望みにもまして彼は彼の車をひいて他の者と共に行けることを欲したのであつた。

その夜ヘンリーはユタに行けるように授けて下さいと主に祈つた。翌朝彼の病氣は余程よくなった。彼はヤコブとヨハネの手車を手伝いながら旅を続けた。

その夜、キャンプする頃になつた。開拓者たちは各自の車から品物を取り出した。そしてめいめい自分の仕事にたずさわつた。彼らは火をおこし、何か食物を料理し始めた。それから又、明日の行進にそなえ、よく休む為に彼らは地上にベットをつくつた。息子たちが働いた。ヘンリーは休んだ。

大きな体が細く脚の長い獵犬がキャンプにやつて来た。その犬は一軒々々にキャンプをうろついてヘンリーと子供たちの作つたキャンプ迄来た。犬はそのあたりを嗅ぎ廻つた後、我が家でもあるかの如くそこに横たわつた。子供たちは喜んだ。彼らは犬と話したり又可愛がたつた。この一団の中で愛玩用の犬を飼うことは禁じられていた。食物は不足しており、働いて食物をかせぐ事の出来ない動物に与えることは出来なかつた。

ヘンリーは或考えを持っていたが、それは素晴らしい理想であることが証明された。彼はあたりを探して綱や革紐を集めた。そして間もなくひきづなをつくつた。ヘンリーがそのひきづなを犬にかけて手車に結びつけた時、犬は別に氣にもしなかつた。そして以前にそれをひいた経験があるかのようにひき始めた。

翌日犬は手車をひくのを手伝つた。今や、この大きな犬は愛玩用でなく助手と認められたので留まることを許されたのである。ヘンリーテムベストとその息子たちは手車から彼らの食物を出して犬に別け与えた。彼らは如何にこの大きな獵犬を愛したことであらうか！

毎日々々如何に太陽が照りつけようと、或いは又風が吹こうと犬は手伝つた。事実、この犬は数百哩のこの広原の大部分をこの手車をひっぱつたのであつた。ヘンリーは息子たちと共に歩いて行く力を祝福されたのであつた。

凡そ3ヶ月間、この手車をひっぱつて歩いた後、彼らはソルトレーク市に到着したのであつた。彼らはその住家を建てれる処へ来た時、如何に喜んだことであらうか！

彼ら到着してから間もなく、この大きな、獵犬は消失して再び現われなかつた。